平成３０年度～令和２年度

研究集録

研究テーマ

夢に向かって挑戦する子どもを目指した
カリキュラムの確立

令和３年３月

鹿児島県立中種子養護学校

平成３０年度

鹿児島県立中種子養護学校

H30年度の研究

まとめ

中種子養護学校　研修係

1　テーマ

平成30～32年度（3か年研究）

夢に向かって挑戦する子どもを
目指したカリキュラムの確立

平成30年度のサブテーマ

～単元（題材）評価・改善シートを用いたＰＤＣＡサイクルによる教育課程編成手順の検証～

※Plan(計画)・Do（実行）・Check（評価）・Action（改善）

２　研究内容

① 子どもたちの「夢」を分析し，教育的に取り組める内容として重点目標を設定，授業実践する。

② 「主体的学び」「対話的学び」「深い学び」につながる一人一授業実践及び授業研究会を行う。

③ 単元（題材）評価・改善シートの蓄積，活用を図り，指導計画や教育課程の編成の手順を明確にする。

夢に向かって挑戦する子どもを目指したカリキュラムの確立
（今回の研究の考え方）

学校教育目標（目指す子ども像）

各学部目標（身につけてほしい力）

教育課程

個別の指導計画　年間指導計画

単元・題材の指導計画

本時の指導計画

授業

評価

改善

（スモール）pdca

（ラージ）PDCA

単元（題材）評価・改善シートの蓄積から本校の教育課程，学部目標，学校教育目標を明確にしていく。

日々の実践，一人一授業の実践，授業改善蓄積

3　研究方法

＜研究内容①＞
子どもたちの「夢」の具現化

「夢」実現に向けた具体的な目標として，**教育活動の中で扱える内容**にするために，現在の子どもの実態，発達状況等を分析し「個別の教育支援計画」の中の「重点目標」として明記し，各学部で共通理解する。（ケース会などの時間を活用）

シート３（個別の教育支援計画）

平成　　年　　月　　日（　　）記入

学　部	学　年	氏　名	
教　育　的　ニ　ー　ズ			
重　点　指　導　目　標　（　年　間　目　標　）			
【重点指導目標設定の理由】			
支　援			
教育			
家庭生活			
余暇・地域生活			

重点目標

重点目標設定の理由のところに，「夢」からつながる教育内容をたくさん書き出し，子どもの実態，発達状況を踏まえ，今年は特に○○に取り組んでいくという重点目標設定の理由を明確にする。

→　職員間で共有

重点目標
↓
担任間で話し合い
↓
学部で検討・共有
（ケース会等）
↓
職員間で共有
（ネットワーク等）

３　研究方法

＜研究内容②＞

「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」につながる一人一授業実践及び授業研究会を行う。

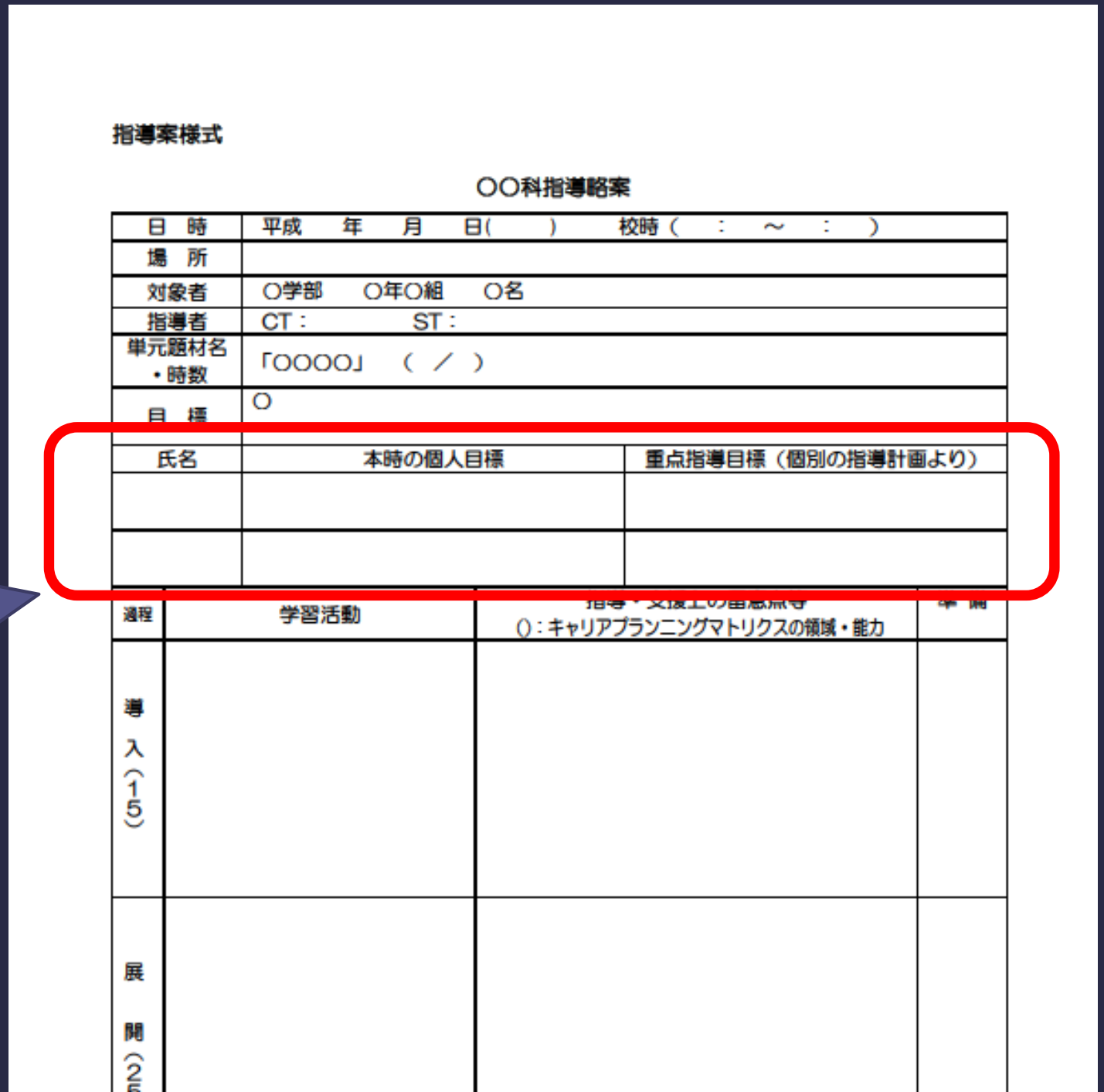
一人一授業実践（研究授業）

- 小学部，中学部，高等部の縦割りでグループを編成。
- 必ず，どの教科等にも各学部の教師が入っている。
- 国語，算数・数学，体育・保健体育，生活単元学習，作業学習の５つの指導の形態で一人一授業を実施。
- 今年度，２４の授業を実施。

一人一授業指導案

「重点目標」を指導案に記入し，授業実践を行う。

合同の学習など，児童生徒数の多い授業では，数人分を抽出して記入する。



指導案様式

〇〇科指導略案

日　時	平成　　年　　月　　日(　　)　　校時（　　：　　～　　：　　）
場　所	
対象者	〇学部　　〇年〇組　　〇名
指導者	CT：　　ST：
単元題材名・時数	「〇〇〇〇」　（　／　）
目　標	〇

氏名	本時の個人目標	重点指導目標（個別の指導計画より）

過程	学習活動	指導・支援上の留意点等 ()：キャリアプランニングマトリクスの領域・能力	準　備
導入（15）			
展開（26			

一人一授業（授業研究会）

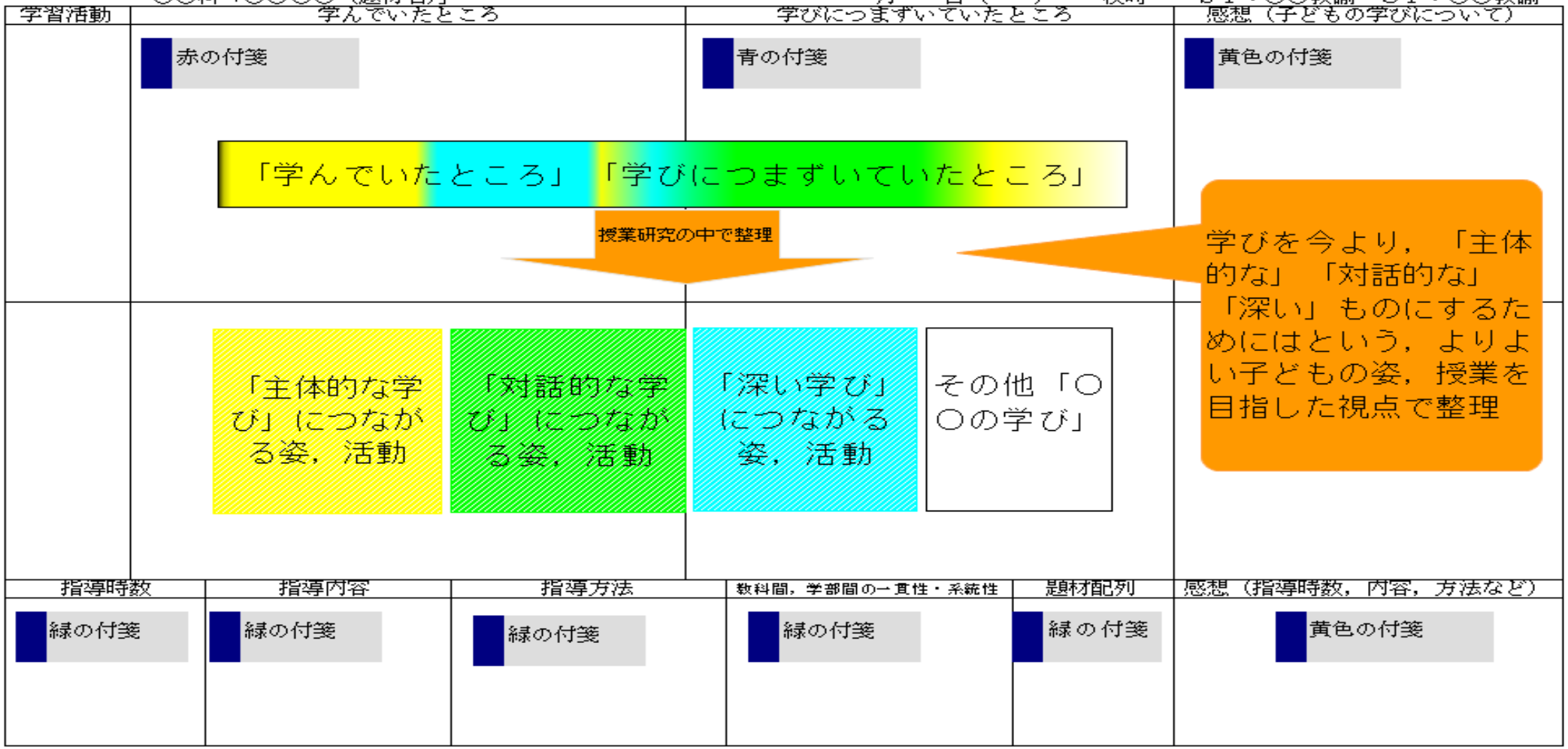
「付箋４５分方式」で行う。（ビデオ視聴含む）

　授業研究の際は，「学んでいたところ」「学びにつまずいていたところ」を意見交換し合いながら，その中で，より「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」につなげるための指導内容や方法を話し合う。

授業研究シート

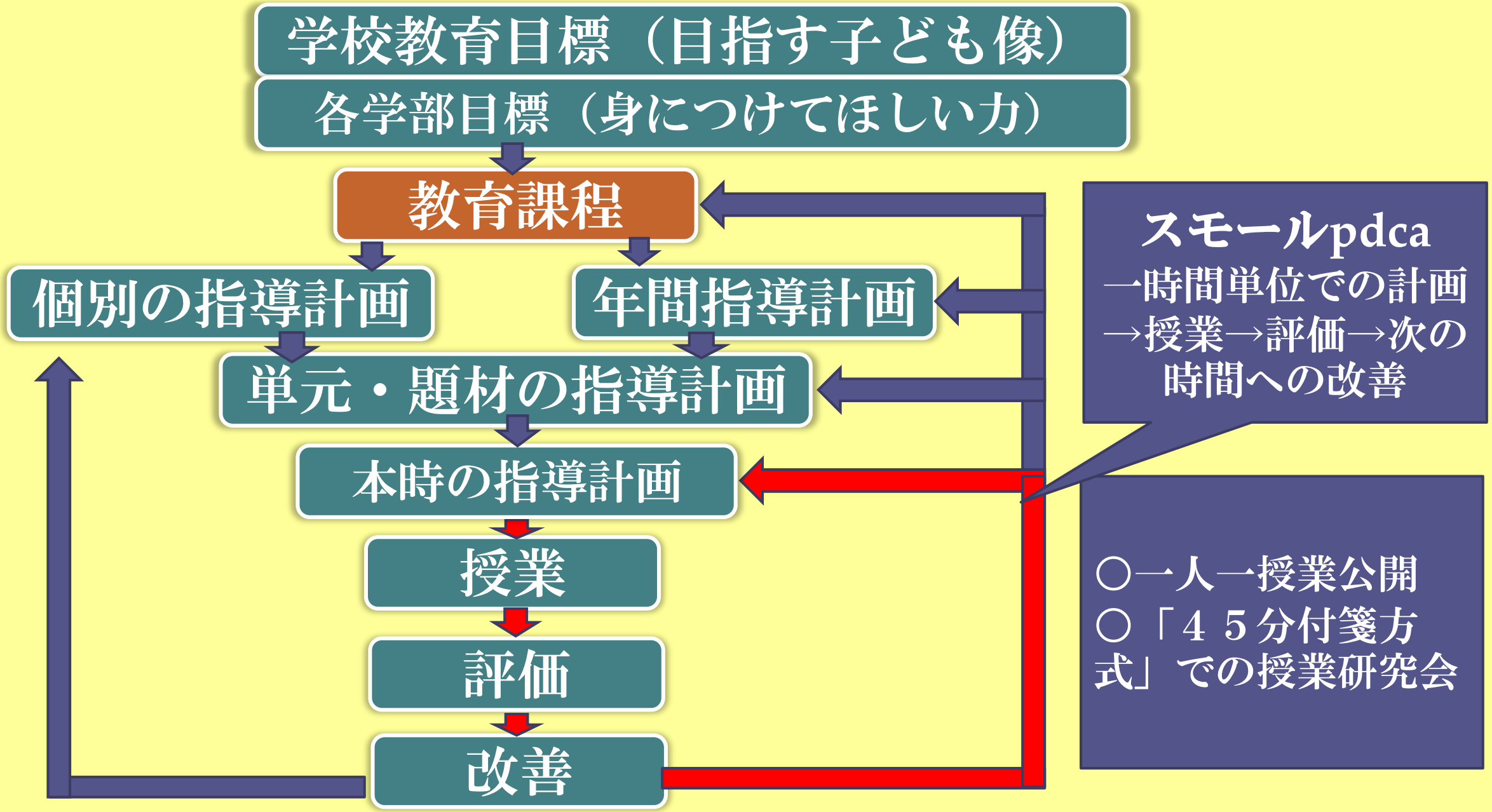
様式２　授業研究シート

〇〇科「〇〇〇〇（題材名）」　　月　日（　）　校時　ＳＴ：〇〇教諭　ＣＴ：〇〇教諭



※　各学部年間指導計画を持参し，題材配列一覧表を見ながら，教科横断的な視点で授業研究を行う。

夢に向かって挑戦する子どもを目指したカリキュラムの確立



３　研究方法

＜研究内容③＞

「単元（題材）評価・改善シート」の蓄積，活用を図り，指導計画や教育課程の編成の手順を明確にする。

特に今年度は，このシートの中の「関連させたい各教科等」の項目について，「深い学び」につながる，学びの連続性をもたせるための各教科間，各学年・学部間の学びの連続性について，課題やつながりを検討していく。

「単元（題材）評価・改善シート」

単元（題材）評価・改善シート（教育課程につなげるシート）

【　　学部】（各教科等　　科　）（　　グループ）（　　年　　組）　　記入者（　　）

実施した単元（題材）名	全体目標の達成度 手立ての有効性	実施時期	計画時数 実施時数	主な指導内容	関連させたい各教科等	全体及び学部で共通理解・検討する事項	その他（感想・引継ぎ等）
	【目標】 おおむね達成 達成されず 【有効な手立て】 ・ ・	（　月）	（計画　　時間） （実施　　時間）	・ ・	・ ・ ・	特に無し 有り（全体） （学部）	
		適 要検討	適 要検討	適 要検討	変更・追加 （　無　有　）		
		【改善案】					
	【目標】 おおむね達成 達成されず 【有効な手立て】 ・ ・	（　月）	（計画　　時間） （実施　　時間）	・ ・	・ ・ ・	特に無し 有り（全体） （学部）	
		適 要検討	適 要検討	適 要検討	変更・追加 （　無　有　）		
		【改善案】					

「単元（題材）評価・改善シート」について

新学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」の視点で検討していく必要がある。

この視点については，一単位時間の中ですべてが達成されるわけではなく，**単元や題材のまとまりの中で，主体的に学習を見通す場面**や，**グループで対話する場面，振り返りと次の課題へつなぐ場面，他教科と関連をもたせる場面**などの視点を単元（題材）の大きなくくりの中で展開できるよう年間指導計画の中に盛り込んでいく必要がある。

夢に向かって挑戦する子どもを目指したカリキュラムの確立

学校教育目標（目指す子ども像）

各学部目標（身につけてほしい力）

教育課程

個別の指導計画

年間指導計画

単元・題材の指導計画

本時の指導計画

授業

評価

改善

改善案を検討し教育課程へ反映
学部会，教科等部会
教育課程委員会
職員会議

ラージPDCA
題材・単元が終わるごとの計画→授業→評価→改善のサイクル

○「単元・題材評価シート」の記入，検討，蓄積

4　研究経過と成果・課題

＜研究内容①＞
子どもたちの「夢」の具現化

- 学級，学部，ケース会等で重点目標について検討

- 重点目標については，実践を重ねながら，学期ごとの評価や教育相談等でも確認をしていく。

本人（○），保護者（□）の夢（抜粋）

○　段ボールたたみや商品陳列の仕事をしたい。
○　ものをつくる仕事をしたい。
○　車の免許をとりたい。
○　将来はレストランで接客をしたい。
○　看護師か保育士になりたい。
○　自分の名前や1～10の数字を書いたり読んだりしたい。
□　困ったときは伝えられるようになってほしい。
□　身辺処理ができるようになってほしい。
□　友だちと楽しく過ごしてほしい。
□　将来の自立に向けて，自分のことを自分でできるようになってほしい。
□　買い物を一人でできるようになってほしい。

重点目標（抜粋）

- 靴を左右正しく履くことができる。
- ５０音の読み書き，５までの数の具体的操作ができる。
- 机上学習等に１５分間集中して取り組むことができる。
- 平仮名の読みとなぞり書き，また，自分の名前を平仮名で書くことができる。
- 身近な人と，手話やサインで要求を表出することができる。
- 写真カードやシンボルマークを見たり，タイマーを利用したりして行動に移すことができる。
- 集団の中で自分の気持ちを調整して活動することができる。

年間指導計画等も踏まえ，教育活動のどこで，どのように取り組んでいくかを明確にしていく。

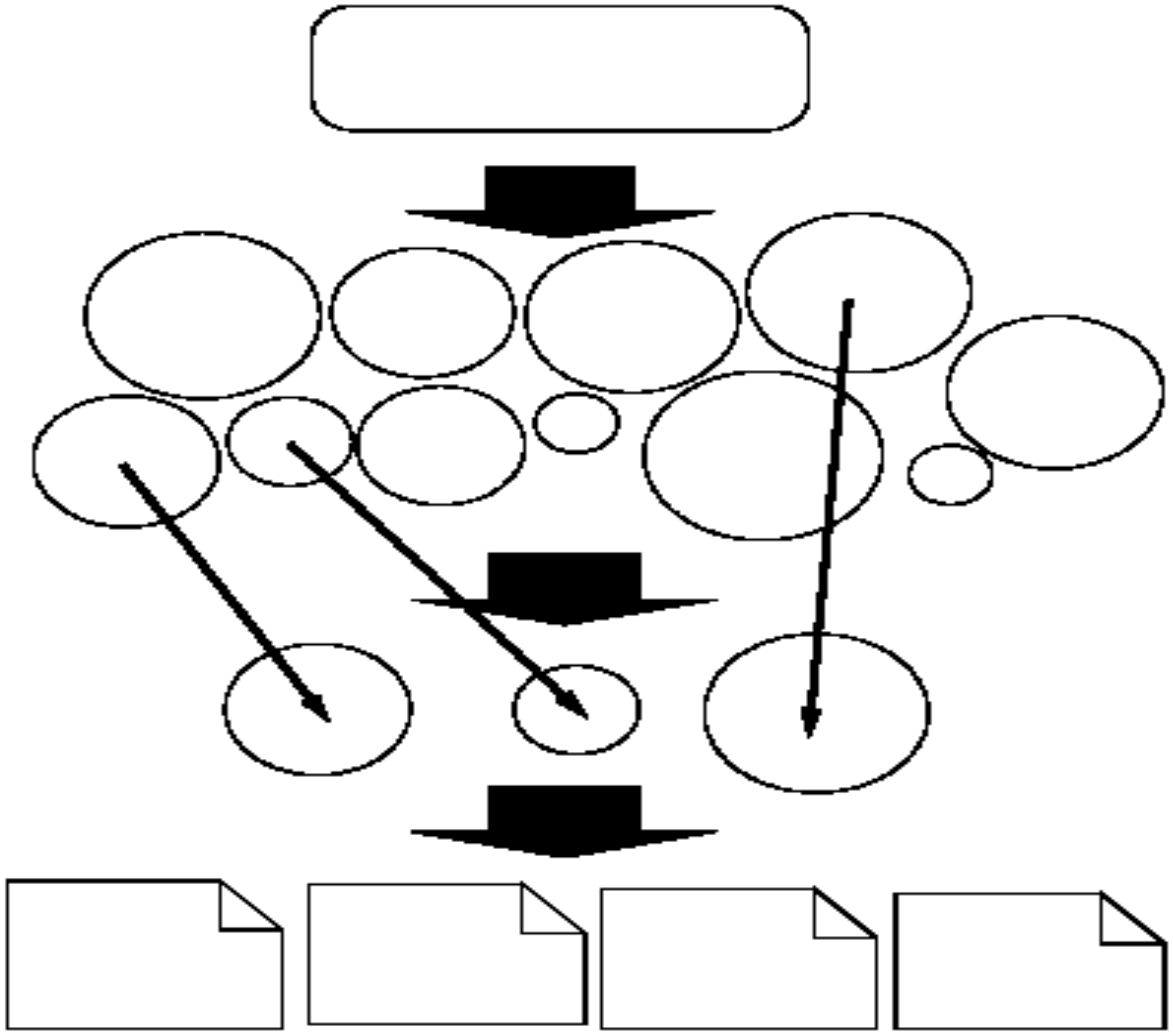
例えば
夢:「一人で買い物に行けるようになってほしい。」

ものの名称を覚える。文字を覚える。数字を覚える。 お金の意味や活用，等価関係。
横断歩道の渡り方　歩道の歩き方　交通ルール　お店でものを買うことの理解
もののマッチング　　情緒の安定　認知課題。 コミュニケーション力　　体力　歩行能力
など夢を実現するために必要な力を高めていく必要がある。
そのために，今年，学校で取り組むべき課題を整理し，重点目標として･･･。

今年1年の重点目標として（子どもの実態，発達状況を踏まえ，今年1年で必ず達成するために取り組む目標）
- 教室にある日常生活で使うものの名称を覚えたり，読んだりできる。（例　はさみ，くつした，自分友達の名前）
- 数への興味をもち，カレンダーの数字を読む。

夢を分析し，教育的内容に変換する。
子どもの実態，発達状況，指導計画等を踏まえ，重点目標として明確化する。
その毎年の積み上げが「夢」達成へとつながる。

「夢」を教育内容（日常の取組）へ



「夢」

本人，保護者の希望，期待，想像
「～になりたい」「～になってほしい」

「必要となる力」

「夢」達成に向けて，多様な観点から
「必要となる力」を挙げていく。

「重点目標」

「必要となる力」から抽出し「重点目標」の設定
必要となる力から対象児の年齢，実態等から分析し
本年度取り組む「必要となる力」の抽出
「重点目標として明記」

「個別の指導計画」

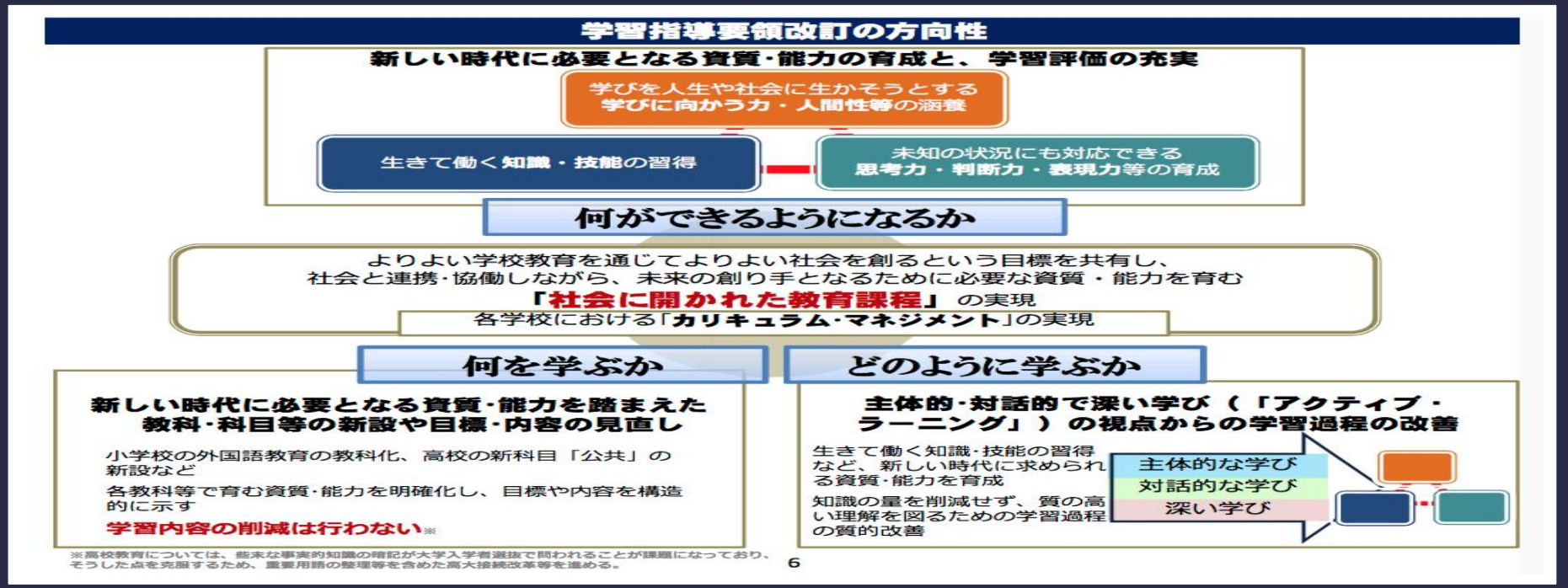
各教科の指導計画・目標等も検討しながら，どの教科等でどの時期に本時の重点目標につながる学習内容を取り組むか。
個別の指導計画の教科等の目標の中に入れていく。

子どもや保護者の「夢」について具体的に考えていくことの効果

- 子どもに何を取り組んでいるかを共有できる。（教師間，保護者間）
- 子どもの今の取組が何につながっていくかの共通理解・共有ができる。（教師間，保護者間）
- 職員同士で共有することで，子どもへの指導（関わり方等）が一貫してくる。
- 保護者が学校での取組を理解することで，家庭でも取り組んでみようという思いをもつ。学校での取組の理解につながる。

子どもや保護者の「夢」について具体的に考えていくことの効果

- 「何ができるようになるか」　→　「夢」
- 「何を学ぶか」　→　「必要となる力」　教科等の見方・考え方を踏まえ個別の指導計画の目標・重点目標設定とその取組，評価，編成の積み重ね
- 「どのように学ぶか」　→　「主体的・対話的で，深い学び」の授業改善・実践の中で，子どもの資質・能力の育成



４　研究経過と成果・課題

＜研究内容②＞

一人一授業実践及び授業研究会（今年度24の授業実践）

学習活動
学んでいたところ
学びにつまずいていたところ
七夕の
飾り作り.
見本を見る
タについて知る
(ビデオ等)
指導時数
指導内容
指導方法
題材配列

４　研究経過と成果・課題

＜研究内容②＞

一人一授業実践及び授業研究会

これまでの授業実践，研究授業で出てきている大切にしたい視点４つ

（視点１：授業前後に検討・計画）

- この単元，題材，学習内容は適切か
- 単元・題材の活動内容は，指導計画どおりでなく，子どもの実態にあった内容，活動に適切にアレンジ
- 単元・題材の時数は，「時数どおり」「月ごとに変更」ではなく，子どもたちの意欲・態度，満足度等を検討し，適宜調整

＜ＯＮＥペーパーから挙がってきたキーワード＞

・既習経験の把握　　・課題設定

・他教科との関連
　　（他学年等縦の内容や他教科等横の内容の関連）

・実態，意欲，興味・関心に沿った学習内容

・適切な実施時期，時数設定

（視点２：子どもたちへのインプット，特に導入段階で）

- 子どもが，見通しをもち自ら学ぶ授業，個々の子どもへ見通しのインプット。
- 子どもが，今日やることの見通しをもつ。
- 今日学ぶこと，できるようになることの目標を子ども自身が知り，考え，取り組める。

＜ＯＮＥペーパーから挙がってきたキーワード＞

授業に向かう
意欲，期待感

前時の学習の
想起

本時の学習の
見通し

子ども自身が
目標を明確に
もつ

学びにつなが
る時間設定

・楽しい雰囲気作り　・視覚支援　・興味をもちやすい教材

・目標を板書　・事前学習　・必要に応じて実態別の学習

・教師がモデリング　・数値目標　・目的，意味を伝える

・教材・教具の工夫　・毎回繰り返し取り組む課題設定

・前時の学習の振り返り　・子どもたちの既習経験の把握

・前時の教材・教具を使った前時までの振り返り

（視点３：インプットとアウトプット，特に展開の段階）

- 達成感が得られる授業（子どもたちの「できた」「わかった」）
- 子ども自身の活動，考えを主体にインプット，アウトプットでの学び（対話的な学習展開）
- 子どもの理解できる手立て(話す速さ，言葉，板書，課題設定等)を大切にした活動
- 子どもからの発信を大切にした活動
- 「自分で考えて」「友達（教師）から聞いて」「友達（教師）との学び合いで」できたを感じる活動

＜ＯＮＥペーパーから挙がってきたキーワード＞

意欲・興味・関心の活用

理解につながる手立て

子ども同士のやり取りの場の設定

表現の場の設定

話す早さと理解できる言葉の使用（子ども，教師）

・友達の様子をみる　・良かった点を伝え合う

・個別学習の時間設定　・それぞれに合わせたワークシート

・ヒントをもらいながら自分で考え，自分で取り組む

・机をつけて話し合える環境作り

・小集団での話し合い活動（どの子も発言しやすい環境作り）

・グループで話し合い→発表（小グループでの話し合いは意見が出てよかった。）

・ロールプレイ　　・実際の場面を想定しての活動

・場の設定等環境を整える　　・対話を大切にした活動

・児童生徒が「自分から動く」設定　・花丸，賞賛

・内容の理解を実態に応じて促すためのSTの働き掛け

・相手からアドバイスや称賛を得る活動設定

・授業途中での意欲付け

（視点４：子どもたちからのアウトプット，特に終末の段階）

- 学習を振り返り，学びを再確認できる授業
- 子ども自身が，今日の活動に対する振り返りを表現・発信できる手立て・設定
- 子ども自身が，表現・発信しながら，自分のできた，できなかった，わかったを振り返る十分な時間設定

＜ＯＮＥペーパーから挙がってきたキーワード＞

授業後の
達成感

子どもから理
解の表現・
発信の場

子ども自身の
振り返り

表現する
時間的ゆとり

次時の活動へ
の見通し

・活動の最初のものと最後のものを見比べて成長の自己評価

・学びにつながる時間設定

・友達の意見に耳を傾けもっと深い学びにつなげる

・同じ題材を何度か取り上げることで，本時の振り返り

・発表の形をとる

・みんなで称賛し合う

・個人反省→グループで反省→全体反省の３段階反省

・まとめたことをタブレットで写して，みんなで見る

・ワークシートの活用

・学習の最後に，友達や教師からどこを頑張っていた（良かった点）などを伝えたり，自分で発表したりする

授業改善（実践）の前提として

学習環境の重要性

先生方，子どもたちの特性を理解して実践を進めていると思います。
授業前の準備として，キーワードに挙がったことは，日頃，改善を図っていると思います。
ただ，教師同士でなかなか気付かない，伝えきらない課題として，学習環境の見直しがあります。

例えば，先生方の自分の子どもが，先生方の教室で授業を受けているとします。
その教室で親として授業を参観すると仮定して，どんなところに目が向くでしょう？

教室環境は？
掲示物，机の中，
かばん棚の整理等
学習に集中できる環境

子どもの授業態度は？
話を聞く態度，机上の
教科書，筆箱　準備物

先生の授業の進め方は？
理解できる話し方
理解できる板書，進め方
（理解できる手立て）

学級の雰囲気は？
子どもと先生の関係は
子どもと友達の関係は

４　研究経過と成果・課題

＜研究内容③＞

単元（題材）評価・改善シートの蓄積，活用を図り，指導計画や教育課程の編成の手順を明確にする。

単元や題材が終了するごとに，「単元（題材）評価・改善シート」を基に，研修の時間や学部会の時間を利用して，授業や指導計画の改善に向けた検討を実施。

様式３

３０　単元（題材）評価・改善シート（教育課程につなげるシート）

【　小学部】（各教科等　特別活動　）（保健体育グループ）（　　小学部　全体　　）　　記入者（　　）

実施した単元（題材）名	全体目標の達成度 手立ての有効性	実施時期	計画時数 実施時数	主な指導内容	関連させたい 各教科等	全体及び学部で共通 理解・検討する事項	その他 （感想・引継ぎ等）
男の子　女の子	【目標】 おおむね達成？ 達成されず 【有効な手立て】 ・実態の差が大きくなっていることや児童数の増加も考えると，２グループに分かれての指導も検討してはどうか。	（５月） 適 要検討 ↓	（1頃　１頃） （1頃　１頃） 適 要検討 ↓	・体の成長を知る ・男女の体の違いを知る。 適 要検討 ↓	・体育（水泳学習） ・生単（宿泊学習・修学旅行事前指導） ・日生（排泄・更衣） ↓ 変更・追加 （無　有）	特に無し 有り（全体） 有り（学部） ↓	・ごくわずかな人数だったが，興味関心のある児童には，深い学びができたと感じた。 ・いのちの授業や体の成長・発育等に関しての指導を検討してもよいのではないか。個別や少人数で行うことになると思うが・・・。 ・後ろの方に座っていた児童や内容の理解が難しい児童にとっては，有効な働きかけや言葉かけがうまくできず，申し訳なかった。
		【改善案】					
		・水泳学習との関連を持たせたいのであれば，適。 ・体の成長やいのちの大切さを伝える授業であれば，適。 ・男女の体の違いや使用する場所等の指導であれば，宿泊・修学旅行前の９月頃はどうか。		・この時間の目標を明確にし，焦点をしぼる。全体での指導で男女の違いを指導するのは難しい。 ・小学部の段階では，明確に男女を分けたり，男女の違いをはっきり伝える指導でも良いのでは？		・ＬＧＢＴ等，多様化する性への価値観から性指導については当然，配慮すべきことが出てきている。ただ，従来の性指導が必要な児童生徒も多い。配慮しすぎて焦点がぼやけたり，性に対して間違った認識を与えてしまうことで，これまで防げていたトラブルが起こる可能性もある。	

4　研究経過と成果・課題

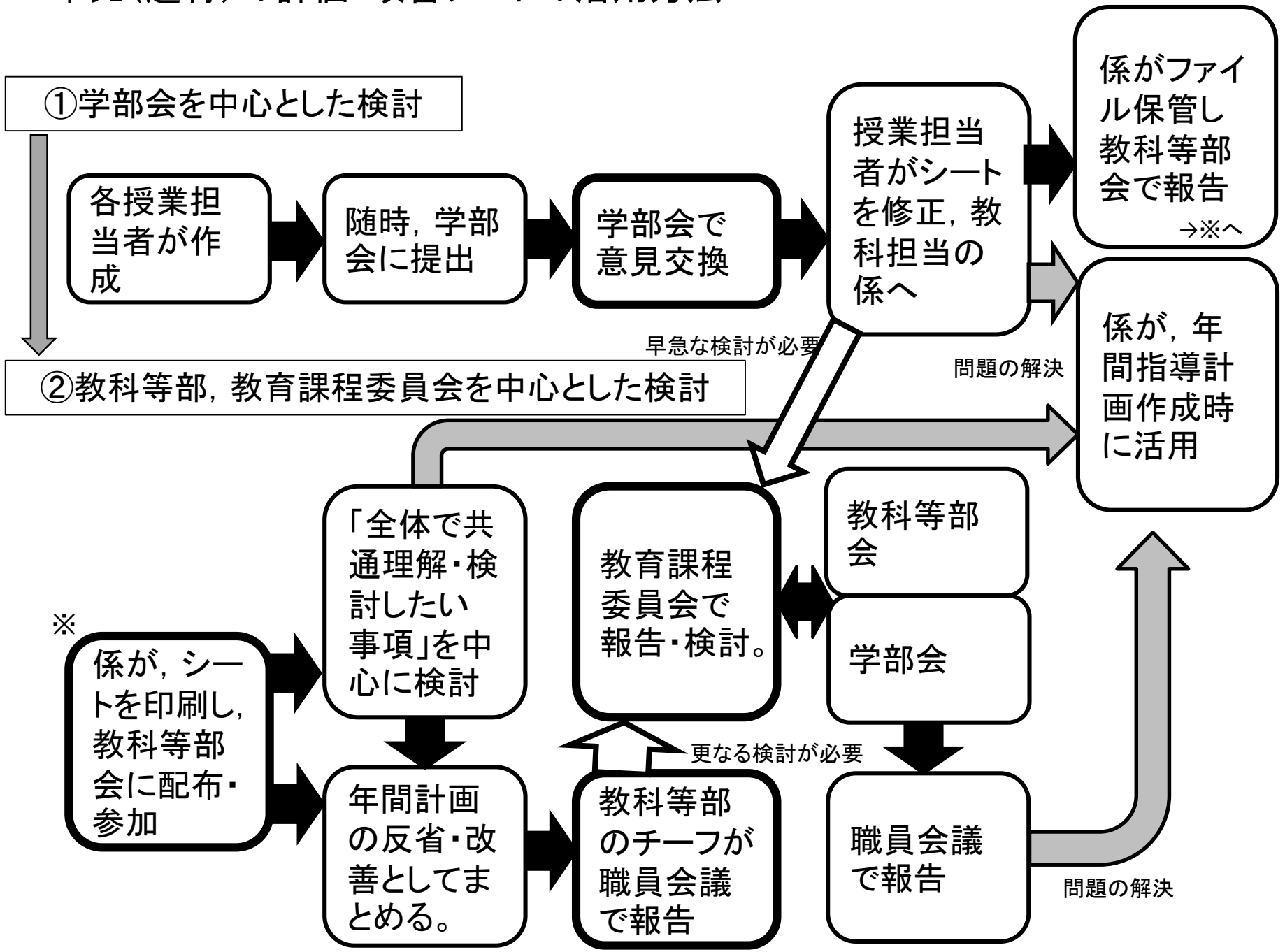
＜研究内容③＞

「単元（題材）評価・改善シート」を使った検討

主に出てきている検討事項

- 時数の加不足の検討
- 学習グループの検討
- 横断的視点での他教科等との関連　実施時期の検討
- 縦断的視点での学年間，学部間での学びの連続性
- 実際に体験する中で学んでいく活動の検討
- 地域人材・資源の活用によるより実際的な経験
- 将来の社会の中で必要とされる学びの内容の検討

単元（題材）の評価・改善シートの活用方法



インプット

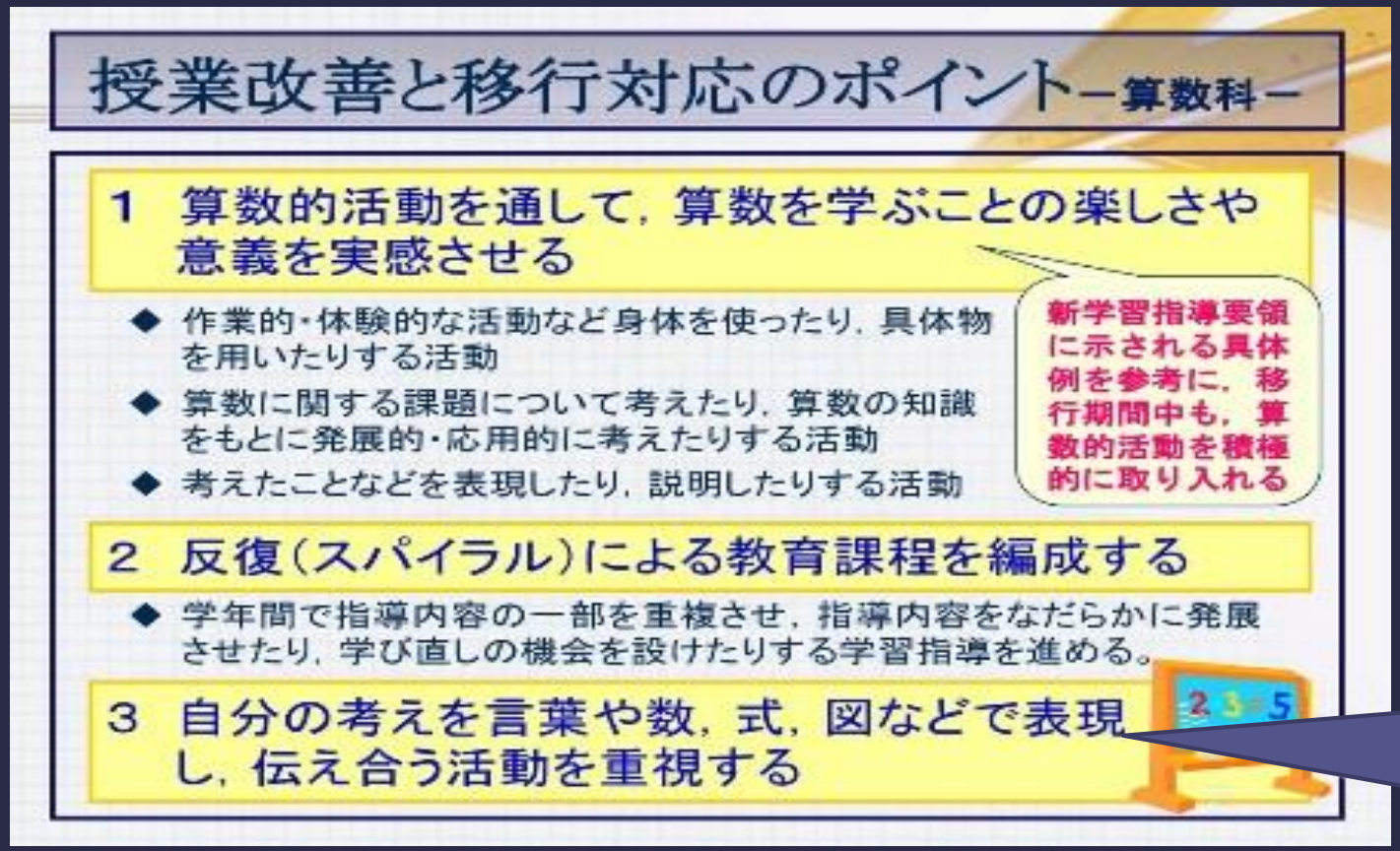
基礎・基本，既習経験，既習学習
見通し，聞く，読む
知識・技能

アウトプット

考えを伝える，思考を深める，
振り返る，話す，書く
思考力，判断力，表現力

インプット＋アウトプットでのスパイラル

相互理解，対話，発見，疑問
学びに向かう力，人間性等



１単位時間の中での考えだけでなく，１つの単元（題材）のまとまりの中にも盛り込む。

指導方法等に関するいろいろな書物を買う前に，値段的にも安い新学習指導要領を読みましょう。具体例があり，詳しく書かれています。参考になる指導方法が見つかるかも。

指導計画編成に向けて基礎・基本をインプットし，編成作業でアウトプットしていきましょう。

平成３０年度　テーマ研修（授業実践後の one ペーパーから抜粋，まとめ）

（授業実践からの子どもの姿）

子どもたちの視線，動き，発言，学習に向かう姿が輝いていたのはどこだろう。

- 赤ちゃん人形のだっこ。体の大きさや男女の違いなど直接触れて学んでいた。
- 伝言ゲームはふれあい，集中して聞く，学習内容が頭に残るなど効果的だった。
- ジェスチャーゲーム，伝言ゲーム，しりとりなど，全体的に楽しみながら学べる工夫がされていて，どの活動でも子どもが生き生きしていた。
- きれいなもの，かわいいものを作ることは，子どもたちは好きなんだなと思いました。どのようなものを教材にするかで，モチベーションも変わるので大事だと思いました。
- 繰り返し，導入で１００マス計算をすることで,学習活動に集中して取り組むことができていた。
- 教師や友達が，アイロンがけの見本を見せているとき，しっかり注目していた。
- ペープサートを使った読み聞かせの場面。身を乗り出す場面もあり，わくわくどきどき感が伝わってきます。
- 電停に降車場のヒントとなる写真など視覚的支援があってよかった。
- 課題分析表をもとに，目標を自分たちで考えて，具体的に立てることができていた。
- 自分の実習への不安を書き出し，友達と見せ合っていた場面

子どもが，聞く，見る，話す（伝える）の学習をとおして学び合いができていた場面，場の設定はどこだろう。

- ＳＴとの対話の中で，質問に答えることができていた場面。
- 学習課題の文字を子ども同士で伝え合う場面。
- 子どもが，「〇〇さんどうぞ」と声をかけながらプリントを配っていた。
- ロールプレイを通して，対応の仕方を知ったり，確認し合ったりしていた場面
- 友達と一緒に乗り，電停を見ながらどこで降りるなど，教えてあげたりしていたところがよかった。
- ワークシートにまとめた意見をグループ内で発表する場面
- 実習の不安を同じ不安をもつ友達同士で話し合い，共感しあったり解決策を考えたりする場面
- グループで話し合う場面・発表場面
- 代表生徒が数えた具体物を他の生徒も一緒に数えて答え合わせをしていた。（お互いを認め合う）
- 話し合い活動で不安なことに対して友達同士，アドバイスができていた。

子どもが，自分自身で，考え,判断して，行動していた場面はどこだろう。
今回の学びが，将来の余暇，ほかの題材，単元，教科の学習と関連をもたせると，より深まると感じた場面はどこだろう。

- 「性に関する指導」学部もつながりをもって，系統立てて指導計画を立てていくことも必要。
- 分からないときには，ヒントがあるという安心感もあり，考えることができる。
- カートを使って，実際の市電と同じような体験をしていたところ。
- パソコンで写真を見て，そのときの気持ちを写真カードで選択するところ。
- 点線の点を減らしていき，始点と終点で文字が書けるようになると少ない支援で文字が書けるようになる。
- 個別学習の場面，買い物や外食を想定して，野菜やカレーなどの写真カードを使って学習すると生活に結びつく。
- 生徒同士で話し合って，役割分担できていた。
- グループでお互いの意見を出し合っていたところ。他教科の学習方法としても有効だと思った。
- 友達と話し合ったことを発表していた場面
- 友達との話し合い活動の場面（他の学習でも話し合い活動を取り入れるとのことだったので）様々なテーマに即して，友達の意見や考えを聞く。自分の考えを相手に伝える経験を積んでいけると将来の仕事や人間関係の構築の中で役に立っていくと思う。
- 話し合いの場に慣れるため，他教科でも共通して行える話合いの手順があるとより深まると思いました。

（教師側の授業改善の手立て）

個々の子どもが本時の目標を意識し，活動に見通しをもてるための手立て（インプット）

- 楽しい雰囲気作り
- 実態に応じてアイロン掛けの順番や方向が分かるように，ハンカチに印が付けられていたのが良かった。
- 子どもが興味をもちやすい食べ物を取り上げることで，目標を把握しやすかった。
- 目標を板書して，いつでも確認できるようにする。
- 事前学習等，必要に応じて実態別の学習。
- 活動を一度教師がモデリングすることで，活動を理解し，取り組むことができた。
- グループごとに数値目標を立てていた。

- 話合い，協力，分担などを行う目的，意味を伝えると見通しがもてることがあります。逆に，何のために話し合い，協力，分担をするか分からないままだと，見通しをもった活動は難しいと思います。
- 見通しをもって取り組むための教材・教具の工夫が必要。
- 繰り返し取り組む課題があることで，見通しがもてていた。

子どもが達成感をもてるための手立て（インプット，アウトプット）

- 友達がアイロン掛けをする様子を見て，良かった点を伝え合うなどの活動を入れる。
- 個別学習の時間を設定し，それぞれに合わせたワークシート，教具（お弁当の具）＋歌の準備がありヒントをもらいながらも自分で取り組んでいた。
- 机を寄せて話し合えるようにしていた。
- 小集団での話し合い活動（どの子も発言しやすい環境作り）
- グループで話し合い→発表 （小グループでの話し合いは意見が出てよかった。）
- ロールプレイ
- 実際の場面を想定しての活動
- どこに何があるか，どこに何を片付けるかなど，ある程度環境を整えておくことで，生徒が「自分から動く」ことができていた。
- 内容の理解を実態に応じて促すためのSTの働き掛け
- 少人数グループで，相手からアドバイスや称賛を得ることができたこと。
- 今回のように対話を大切にし，発表する場面を継続。
- プリントに花丸をもらえて，とてもうれしそうであった。

子ども自身が，本児の学習を振り返る手立て，自己評価（アウトプット）

- アイロンを掛ける前のものと掛けた後の物を写真で最後に見比べて自己評価する。
- 子どもの学びにつながる時間設定。
- 子どもたち同士で，友達の意見に耳を傾けられるようになると，もっと深い学びになる。
- 本時のみでなく，同じ題材を何度か取り上げることで，次においても本時の振り返りができる。
- 発表の形をとり，みんなで称賛し合う。
- 個人反省→グループで反省→全体反省の３段階反省
- まとめたことをタブレットで写して，みんなで見ることができた。
- ワークシートの活用
- 学習の最後に，友達や教師からどこを頑張っていた（良かった点）などを伝えたり，自分で発表したりする場面がある。

「主体的・対話的で深い学び」の子どもの姿につながる共通実践の視点（留意点）

＜単元（題材）全体の流れの中で＞，＜本時の流れの中で＞

「導入」での視点（留意点）　インプット

（学習内容，学習活動，本時の目標等，本時の学びを見通しをもちインプットしている姿）

授業に向かう意欲，期待感　／　前時の学習の想起　／　本時の学習の見通し　／　子ども自身が目標を明確にもつ　／　学びにつながる時間設定

- 授業に向かう態度，姿勢（学習の雰囲気）。
- 前時の学習の想起。
- 本時の活動がイメージできる手立て。
  （具体的教材での提示，個々の子どもに会った見通しのもたせ方）
- 流れのパターン化（いつもの流れ），目当ての明確化。
- 子ども自身が学習で何を学ぶか，個人目標の明確化（内面化）。

「展開」での視点（留意点）インプット　アウトプット

（対教師，対教材，子ども同士など，相互のやり取りや関わりの活動をしながら，子どもが，学びを自分の内面に入れる（知識・理解）インプット，入れたことを話し合い活動や発表等で表現するアウトプットの相互展開の中で学ぶ姿）

意欲，興味・関心の活用　／　理解につながる手立て　／　子ども同士のやり取りの場の設定　／　表現の場の設定　／　話す早さと理解できる言葉の使用

- 教師の話し方，板書の文字の大きさなど，子どもが理解できているかの配慮。
- 教師の使う話し言葉（語彙）が，子どもが理解できる言葉（語彙）であるかの配慮。
- 子どもの理解を高める手立ての工夫。
  （具体物活用，互いが影響し合えるグループの工夫）
- 子どもが意欲を高める手立て，興味・関心の活用（学びの必然性）。
- 子どもの実態に合ったヒントの準備（答えでなく，ヒントで子どもが動く，考える）。
- 子ども同士が話し合う場，互いの考えを比較する時間の設定。
- 自分の考えや意見，感想を言える学習の工夫，すべての考えを認める雰囲気作り（学習の精選，時間的ゆとり）。

「終末」での視点（留意点）　アウトプット

（本時の学習で，分かったこと，分からなかったことを，子ども自身が把握し，学習の振り返りの中で，本時の学びを発表するなど自分なりの表現でアウトプットしている姿）

授業を終えての達成感　／　子ども自身の振り返り　／　子どもから理解の表現，発信　／　表現する時間的ゆとり　／　次時の活動への見通し

- できた，分かったと思える達成感。
- 何ができて，何が分かったかを子ども自身が確認できる（発信できる）振り返り。
- 何を次時でするのかを，子ども自身が楽しみにできるまとめ。
- 子どもが，振り返り（内面化）ができる時間確保。
  （時間的なゆとり，子どもの発言を「積極的に」待つ大切さ）

令和元年度

鹿児島県立中種子養護学校
令和元年度　研究のまとめ

テーマ研修係

１　テーマ

平成３０～令和２年度（３か年研究）

夢に向かって挑戦する子どもを
目指したカリキュラムの確立

令和元年度のサブテーマ

～「夢分析シート」・「インプット・アウトプットの視点」
を生かした授業実践と指導計画の編成～

２　研究内容

①　子どもたちの「夢」を分析し，教育的に取り組める内容として重点目標を設定，授業実践する。
〈夢分析シート〉

②　「主体的学び」「対話的学び」「深い学び」につながる一人一授業実践及び授業研究会を行う。
〈インプット・アウトプット〉

③　単元（題材）評価・改善シートの蓄積，活用を図り，指導計画や教育課程の編成の手順を確立する。
〈生活単元学習の年間指導計画の編成〉

３　研究経過

＜研究内容①＞
子どもたちの「夢」の分析と具体的な指導内容

「夢」の実現に向けて必要となる力を検討し，その力を各教科等のどの単元や題材で育てていくか明らかにする。

- 夢について家庭訪問での本人・保護者との話し合い
（～だったらいいな，　～したいな，　～していてほしいな）
- 「個別の指導計画」の重点目標との関連
（今年の「重点目標」が「夢」につながっていくように）
- ケース会等での共有

＜研究内容①＞「夢分析シート」の作成を通して

【　よさ①　】児童生徒の夢と，日頃の授業のつながりに気付くことができる。

- 夢から，学習内容を整理（イメージ）できる。
- 本人の課題や，それに対する学習を具体的に考えられる。
- 重点目標と授業との結び付きを考えるきっかけになった。
- 夢分析から，付けたい力や課題を検討する前向きな取組。

【　よさ②　】児童生徒の課題を共有しやすくなる。

- 自分のクラス以外の生徒の課題が分かりやすい。
- 家庭と，児童生徒の目標について共有しやすくなる。
  （学校でやっていることが夢につながることの説明資料になる）
- STで指導するときに，児童生徒の課題を意識して取り組める。
- 合同学習での活用が期待できる。

＜研究内容①＞「夢分析シート」の作成を通して

【　課題①　】　意見交換の場の設定が必要

- 夢によっては，シートの作成を難しく感じる。
- 教科等が偏ることがあるが，それで良いか迷った。
- 教科等の選択（絞り込み）の難しさ
- 学習内容や教科など，選択する面があり，「これで良いか」と不安に感じるときがある。
- 作成に当たり，考える時間が必要なので時間を要した。
- 授業で取り組みたい課題は多くあり，絞り込みが難しい。

【　課題②　】 個別の教育支援計画等との関連の整理の必要性

＜研究内容①＞「夢分析シート」の作成を通して

【　課題①　について　】

意見交換の場の設定が必要

- 夢によっては，シートの作成を難しく感じる。
- 教科等の選択の難しさ　　ほか

○　ケース会議等の既存の話合いの場を活用して，多くの視点で児童生徒の夢の分析を進める。

- シート作成の難しさ：（夢達成に向け必要となる力・考えられる力の羅列）を様々な視点で挙げること
- 教科等の選択：「夢」を分析したときに，重点をおきたい内容。指導の機会の洗い出しとして捉えてみる。

＜研究内容①＞「夢分析シート」の作成を通して

【　課題②　について　】

個別の教育支援計画等との関連の整理の必要性

○　キーワード1

「夢」　（夢分析シート）
「本人及び保護者の夢や希望」　（個別の教育支援計画）

○　キーワード2

「今年度取り組む課題」　（夢分析シート）
「将来求める姿（2～3年）」（個別の教育支援計画）
「重点目標」　（個別の指導計画）

＜研究内容①＞「夢分析シート」の作成を通して

【　課題②について　】

個別の教育支援計画等との関連の整理の必要性

夢

- 〇　実現が困難な空想的な願い
- 〇　将来は実現させたい願い・理想

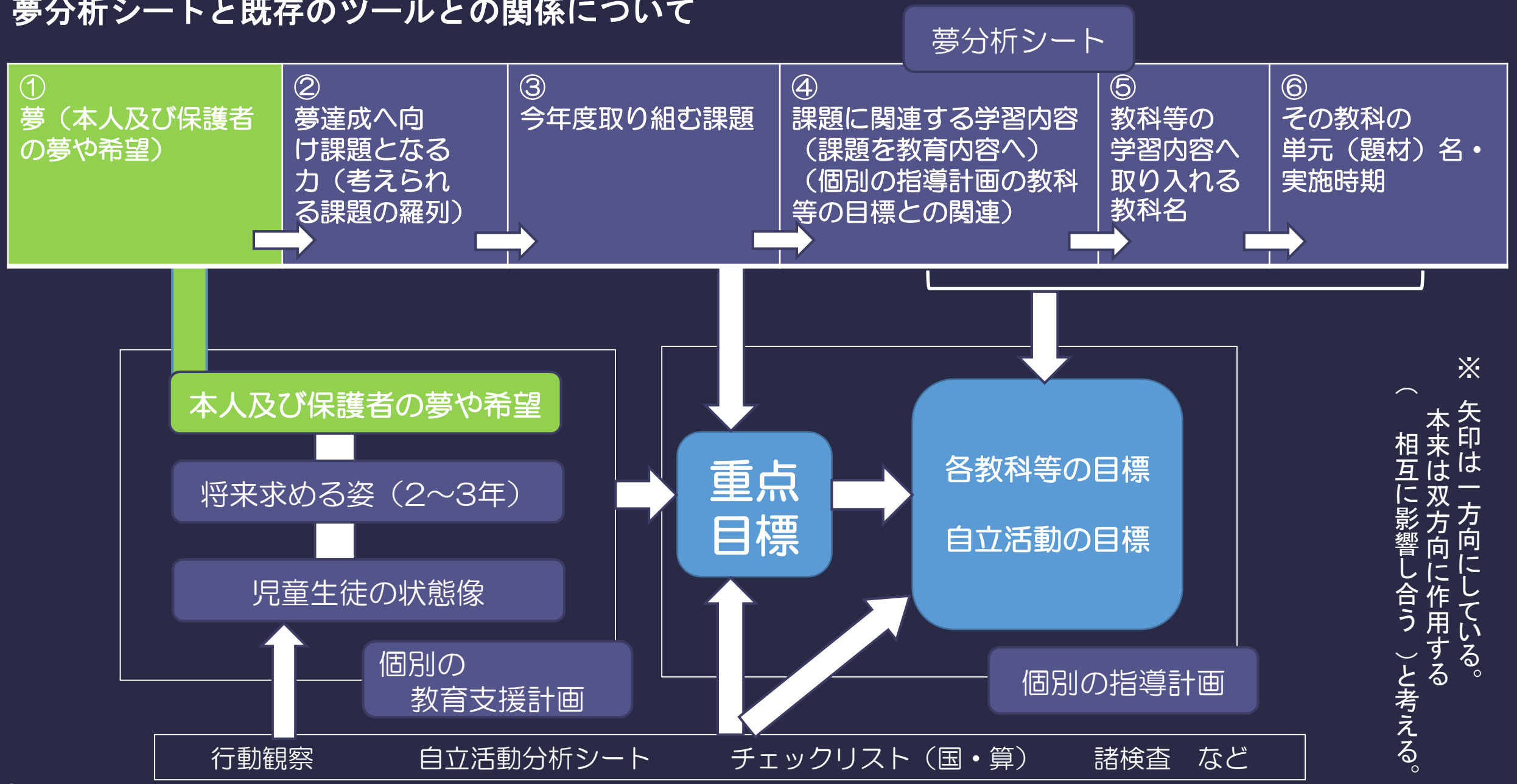
希望

- 〇　こうなればよい，なってほしいと願うこと。
  また，その事柄の内容。

（岩波　国語辞典）

理想的 ―――――――――――――――― 現実的

夢分析シートと既存のツールとの関係について



※　矢印は一方向にしている。
本来は双方向に作用する
（　相互に影響し合う　）と考える。

＜研究内容①＞

子どもたちの「夢」の分析と具体的な指導内容

○　次年度に向けて

①　児童生徒の夢の具現化を図る手立てとして作成・活用を進める。

- 「夢」＝「本人及び保護者の夢や希望」
- 本シートは，「夢」から現在へのアプローチ。
- 本シートを，個別の教育支援計画や，個別の指導計画の資料の一つとして捉える。
- 個別の指導計画の「重点目標」が「夢」につながることを目指したい。
- 本シートの「今年度取り組む課題」と，個別の指導計画の「重点目標」は，重なりのある部分が出てくる。

②　ケース会議等の既存の話し合いの場を活用して，多くの視点で児童生徒の夢の分析を進めたい。（　担任の目＋学部職員の目　）

＜研究内容①＞

子どもたちの「夢」の分析と具体的な指導内容

○　次年度に向けて

③　「夢」は，年度当初に限らず，機会を捉えて本人や保護者と話題にして，把握することに努める。
　職業や生活する様子など様々なことが挙がると考えられる。

④　「今年度取り組む課題」を考えるに当たっては，「夢」の実現に向けて，この一年ではどんな力を付けてほしいか，成長が期待できるか検討する。児童生徒の長所を踏まえて検討し,個別の指導計画の「重点目標」に生かす。

⑤　「今年度取り組む課題」に関連した教科等の選定を行い，個別の指導計画の教科等の目標や学習内容に反映させる。

⑥　職員間：今の取組が何につながっていくかの共通理解・共有
本人・保護者：学校での取組の理解や，家庭生活への反映

＜研究内容①＞

子どもたちの「夢」の分析と具体的な指導内容

○　次年度に向けて

⑦　活用の流れ（案）

4月　○　家庭訪問
個別の教育支援計画（本人・保護者の夢や希望）の聞き取り
○　夢分析シートの作成

5月　○　ケース会Ⅰ・Ⅱ
重点目標，「夢」等に関する意見交換

6・1月　○　教育相談
夢分析シートの活用
「夢」実現に向けた取組の計画や状況
（「夢」が実際の学習に反映されていることの確認など）

各学期　○　学級PTA
必要に応じて本人や保護者の「夢」の確認

３　研究経過

＜研究内容②＞

「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」につながる

一人一授業実践及び授業研究会を行う。

インプットとアウトプットの視点による授業計画と実践

○　一人一授業実践（研究授業）

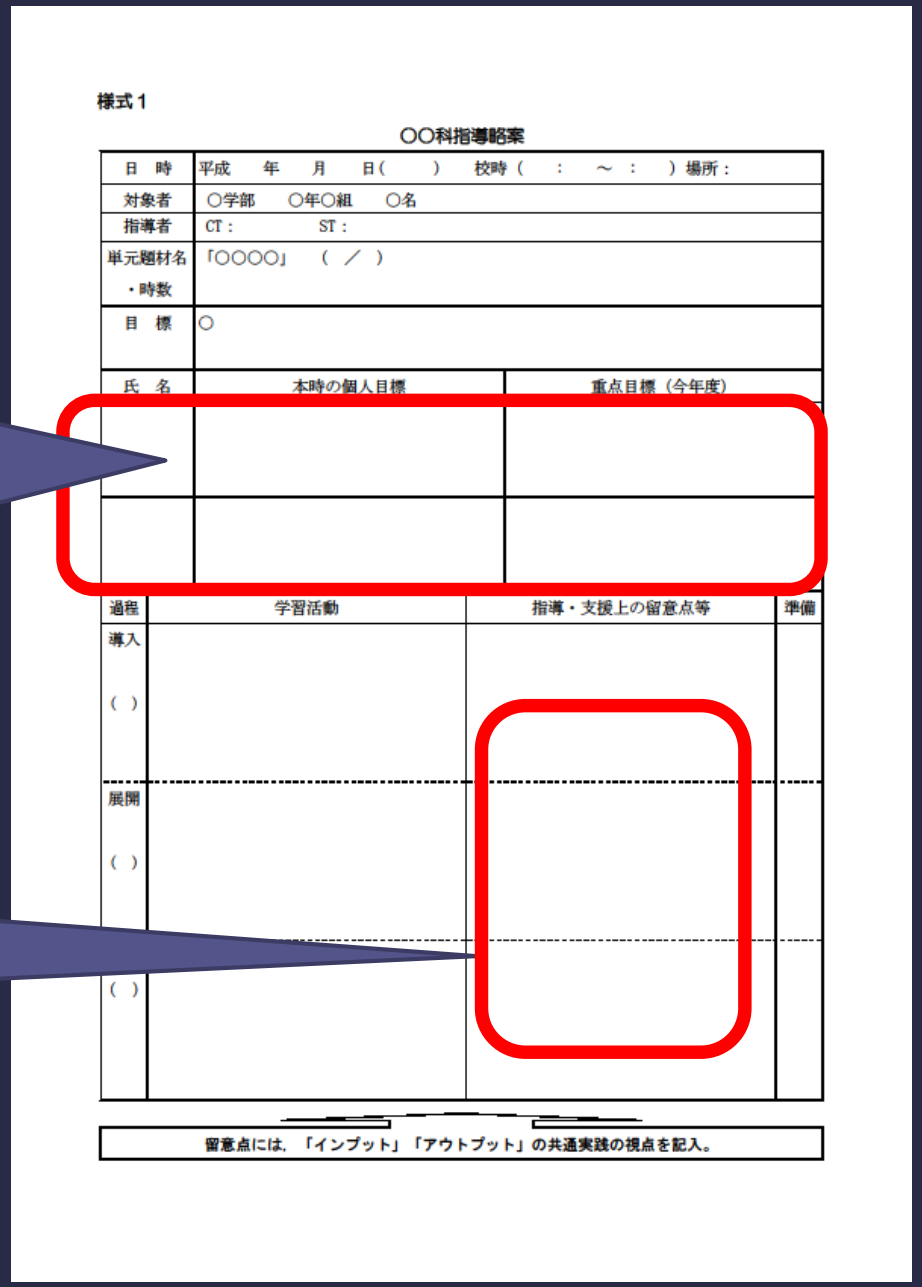
- 小学部，中学部，高等部の縦割りでグループを編成。
- 必ず，どの教科等にも各学部の教師が入っている。
- 国語，算数・数学，体育・保健体育，生活単元学習，作業学習の五つの指導の形態で一人一授業を実施。
- 令和元年度は，26の授業を実施。

＜研究内容②＞一人一授業　指導案様式

「重点目標」等を指導案に記入し，授業実践を行う。

- 合同の学習など，児童生徒数の多い授業では，数人分を抽出して記入する。
- 単元（題材）が「夢」に関連している児童生徒は記載する。

- 「指導・支援上の留意点」にインプットとアウトプットの共通実践の視点を記入する。



様式１

○○科指導略案

日　時	平成　　年　　月　　日（　　）　　校時（　　：　　～　　：　　）場所：
対象者	○学部　　○年○組　　○名
指導者	CT：　　ST：
単元題材名・時数	「○○○○」　（　／　）
目　標	○

氏　名	本時の個人目標	重点目標（今年度）

過程	学習活動	指導・支援上の留意点等	準備
導入 （　）			
展開 （　）			
（　）			

留意点には，「インプット」「アウトプット」の共通実践の視点を記入。

＜研究内容②＞インプット･アウトプットに関する共通実践の項目

	30年度の実践からのキーワード	略案の「留意事項」に記入する言葉
導入	授業に向かう意欲・期待感 → 本時の学習の見通し → 子ども自身が目標を明確にもつ → 前時の学習の想起 → 学びにつながる時間設定 →	（意欲・期待感） （見通し） （目標） （想起） （時間設定）
展開	意欲・興味・関心の活用 → 子ども同士のやりとりの場の設定 → 表現の場の設定 → 理解につながる手立て → 話す速さと理解できる言葉の使用 → （子ども，教師）	（興味・関心の活用） （やりとり） （表現） （理解への手立て） （言葉）
終末	授業後の達成感 → 子どもから理解の表現・発信の場 → 表現する時間的ゆとり → 子ども自身の振り返り → 次時の活動への見通し →	（達成感） （表現・発信の場） （時間設定） （振り返り） （次時へ）

＜研究内容②＞

「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」につながる
一人一授業実践及び授業研究会を行う。

インプットとアウトプットの視点による授業計画と実践

○　よかったところ

- 授業を見てもらい，意見やアドバイス等をもらうことができた。
- 「共通実践の項目」が支援内容・方法を考える際の指針になった。
- 「インプット，アウトプット」を意識した授業実践につながった。
- 学部を超えて意見交換できたことが良かった。
- 系統性を踏まえた授業の在り方を考える機会になった。

＜研究内容②＞　授業展開　・　共通実践の項目　・　具体的な手立て
（一授業の略案等からの抜粋）

導入

【意欲・期待感】　【見通し】

○　学習内容を伝え，これからの学習に見通しがもてるようにする。
○　毎時の学習の流れをある程度共通にして取り組みやすくする。
○　写真付きのカード（工程・名前）を掲示し，担当する作業を自分で確認したり，見通しをもったりすることができるようにする。
○　本時の学習をフローチャートで示し，見通しをもって制作できるようにする。
○　活動内容のイラストを掲示し，内容を理解しやすくする。
○　活動がスムーズに行えるように，学級ごとにスタートの場所を変える。
○　ルーレットを回した人が，出た数の分だけ友達に渡すというルールが理解できるように実際にやってみせる。

＜研究内容②＞　授業展開　・　共通実践の項目　・　具体的な手立て
（一授業の略案等からの抜粋）

導入

【目標】
○　前時の振り返りを行ってから，本時の個人目標を各自考える。困難な場合は，課題分析表と照らし合わせて目標を立てる（作業）。
○　目当てを貼り出し，みんなで読んで確認する。

【想起】　【※意欲・期待感】
○　前時までの学習の記録（プリント，スライド等）を見て，振り返りをする。
○　前時の学習内容を確認しやすいように，写真や文字カード等を掲示する。
○　素材や写真を提示し，見たり触れたりして活動を思い出したり，選んだりできるようにする。
○　習った文字カードを，イラストを見ずに答えられるか確認する。
○　実習日誌を見ることで，レーダーチャートグラフとはどのようなグラフだったのか思い出せるようにする（数学）。

＜研究内容②＞ 授業展開 ・ 共通実践の項目 ・ 具体的な手立て
（一授業の略案等からの抜粋）

展開

【興味・関心の活用】
○ 興味・関心，理解度に合わせた課題を準備する（教科）。

【やりとり】
○ 対戦形式にして，子ども同士や教師とのやりとりができるようにする（カルタ遊び）。
○ したい係が重なったときは，話し合って決めるようにする。
○ 友達のレーダーチャートを見ることで，今まで知らなかった友達の苦手や得意な教科領域に気付けるようにする（数学）。
○ 補助具を用意する際は，生徒が主にサポートできるような物を準備し，生徒同士が協力できるようにする。
○ 「模様」の検討では，美しさや面白さ，独自性等に着目することで友達が作ったパーツに興味をもったり，よさに気付いたり，伝え合ったりすることができるようにする。
○ 難しさのあることについて具体的に教師と話し合う。

＜研究内容②＞　授業展開　・　共通実践の項目　・　具体的な手立て
（一授業の略案等からの抜粋）

展開

【表現】
○　話し合いの結果の発表者を班長が指名し，班ごとに発表を行う。

【理解への手立て　1】
○　必要に応じてヒントカードを確かめて，学習を進めやすくする。
○　事前に発表話形を確かめて，プリントで確認できるようにしておく。
○　選ぶことが難しい場合は，教師と一緒に選ぶようにする。
○　「試作どおりに作らなくても良い」ことを職員間で共通理解し，「色」「形」の組み合わせを自由に楽しむことができるようにする。
○　「定型文に言葉を当てはめる」「三つの観点の中から一つを選ぶ」等，生徒の実態に応じて発表の仕方を選んで，発表できるようにする。

＜研究内容②＞ 授業展開 ・ 共通実践の項目 ・ 具体的な手立て
（一授業の略案等からの抜粋）

展開

【理解への手立て 2】
○ パワーポイントで画面の提示をしてワークシートに必要事項を記入する。
○ 実態に応じて写真等の画像を活用する。
○ 実態に応じてタイムタイマーを使用し，集中力の維持を図る。
○ シートの記入に当たっては，なぞり書きや文字カードを貼るなど実態に合わせた支援をする。
○ より正確に活動が進められるように，言葉掛けや手添えをしたり，型紙や目印の準備をしたりする。
○ 1年生のときと今の身長差をリボンを使って視覚的に示し，成長を実感しやすくする。

【言葉】
○ 行動しやすいように，はっきりとした口調で，具体的に言葉を掛ける。
○ 気持ちが不安定なときは様子を見守る。場合によっては外に出て気分転換するように促す。

＜研究内容②＞ 授業展開 ・ 共通実践の項目 ・ 具体的な手立て
（一授業の略案等からの抜粋）

終末

【達成感】
○ 生徒やチームの良かった点を称賛する。
○ 計算などができた児童には，ポイントを与えて，称賛し達成感を味わえるようにする。
○ 頑張っていたところなどをみんなの前で具体的に称賛し，自信や意欲につなげることができるようにする。
○ 自己評価の観点に「満足度」の項目を設けることで，「完成度」について考えたり，「達成感」を感じたりすることができるようにする。

【表現・発信の場】 【※振り返り】
○ 各自の振り返りを担任が確認し，その後の発表（全体）につなげる。
○ 制作した個数や反省をシートに記入し，振り返りを個別に行う。各班から代表者が発表する。
○ どうやって計算したか，ますやブロックを用いて説明して学習したことを復習できるようにする。
○ 感想を聞いたり，良かった点を発表したりする場面を設ける。

＜研究内容②＞　授業展開　・　共通実践の項目　・　具体的な手立て
（一授業の略案等からの抜粋）

終末

【振り返り】
○　初めに決めた目標を確認し，ビデオを見て振り返るときの視点が分かるようにする。
○　自己評価表に記入し，自分の活動を振り返ることができるようにする。
○　習った文字を読めるか確認する。
○　素材や写真を見るなどして，活動を振り返ることができるようにする。

【次時へ】
○　学習計画表で，次時の学習内容を確認し，次時の期待感を高められるようにする。
○　班ごとに次時の予告を行い，見通しをもちやすくする。

＜研究内容②＞

「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」につながる一人一授業実践及び授業研究会を行う。

○　課題

・　研究の取組を日頃の授業に，より生かしていくこと

＜「インプット・アウトプット」の共通実践の項目と授業の具体的な手立てに関すること等＞

「インプットとアウトプットに関する共通実践項目」の活用による一人一授業や授業研究

大変良かった（16）　よかった（13）　ふつう（3）　要改善（0）

日頃の授業での「インプットとアウトプットの視点」を意識した取組

大変良かった（ 5）　よかった（20）　ふつう（5）　要改善（2）

＜研究内容②＞

「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」につながる一人一授業実践及び授業研究会を行う。

○　次年度に向けて

研究の取組を日頃の授業に，より生かしていくこと

＜「インプット・アウトプット」の共通実践の項目と授業の具体的な手立てに関すること等＞

- 令和元年度：授業研究で交わされる様々なアイデア
- （例）「話し合えるように言葉掛けする」をもう一歩具体的にする取組
- 一人一授業で具体的な手立てを学び合う（略案での手立ての表現と実際）
- キーワード

「インプット・アウトプットの視点」　「主体的・対話的で深い学び」

「育成すべき資質・能力の育成」

３　研究経過

＜研究内容③＞

単元（題材）評価・改善シートの蓄積，活用を図り，指導計画や教育課程の編成の手順を確立する。

- 今年度は，本シートの作成を通して，生活単元学習の次年度の年間指導計画（案）の作成を進め，「育成すべき資質・能力の三つの柱」に基づいた目標等の見直しを行った。

- 単元（題材）の評価（シートの蓄積と活用）→　次年度の指導計画案

- 「単元（題材）評価・改善シート」と「教育課程の編成手順」について各学部で話し合いやアンケート実施

＜研究内容③＞「育成すべき資質･能力の三つの柱」に基づいた目標等の見直し

〔例〕３１年度　小学部　生活単元学習　「仲良くなろう（４月）」　目標抜粋

目標	○　新しい友達や先生を迎え，自己紹介やレクリエーションなどの活動を通して，親睦を深めることができる。 ○　学校の中の様子の変化や生活の流れを知り，学校生活に慣れ，学習に参加することができる。

三つの柱で整理	○　一項目目から【知識・技能】 「新しい友達や先生を迎え，自己紹介・・を通して親睦を深めることができる」 →　新しく出会った人や，なじみのある人に対して，自己紹介の仕方を自分なりに理解して表現する姿をイメージした。 ○　一項目目から【思考・判断・表現】 「レクリエーションなどの活動を通して，親睦を深めることができる」 →　レクリエーション等の事前の学習を生かして，その場の状況に応じて考え，行動する姿をイメージした。 ○　二項目目から【学びに向かう力，人間性等】 年度初めの環境の変化に対応して，意欲をもって学習に参加する姿をイメージした。そのままの表記でよいとも思ったが，児童が自分なりに進んで参加する姿を念頭に，「進んで」を挿入した。

＜研究内容③＞「育成すべき資質・能力の三つの柱」に基づいた目標等の見直し

〔例〕令和２年度　小学部　生活単元学習　「仲良くなろう（４月）」（案）

目標	○　新しい友達や先生に自分なりに自己紹介をしたり，自己紹介を聞いて内容を捉えたりすることができる。　〔知識・技能〕 ○　固定施設等での合同遊びや，レクリエーションなどの活動に取り組み，新しい友達や先生と親睦を深めることができる。〔思考・判断・表現〕 ○　学校の中の様子の変化や生活の流れを知ることを通して，学校生活に慣れ，進んで学習に参加することができる。〔学びに向かう力，人間性等〕

○「例」を参考にして，各単元の目標や，学習内容等の見直しを進めた。
○　単元の設定や学習内容等の設定は，各単元の「評価・改善シート」の情報等を生かして見直しを進めた。
○　年間指導計画の様式は，教育課程係と連携して作成。

＜研究内容③＞「単元（題材）評価・改善シート」と「教育課程の編成手順」に関するアンケート・話し合い（各学部）

【方法１】学期ごとに実施した単元（題材）についてシートを作成して学部で意見交換や共通理解を図る。

【方法２】単元（題材）が終了したら，シートを作成して学部で意見交換や共通理解を図る。

【方法３】その他のアイデア

＜研究内容③＞「単元（題材）評価・改善シート」と「教育課程の編成手順」に関するアンケート・話し合い（各学部）

【方法1】

① 長所

〇 学部で集まり，意見交換できる。まとめてできる。

〇 他の単元との関連性が分かる。その単元だけでなく，他の単元とも合わせて，足りない項目，挿入すべきことを考えることができる。

〇 話し合いの回数が少なくてすむ。問題ないときはよい。

② 短所

〇 内容を絞らないと時間が足りない。1回の話合いで不足だと2回となるが，学期末に時間がとれるか不透明。

〇 まとめて一学期分が配布されるため，目を通すことも難しい。

〇 課題があるとき，学期末ではゆっくり検討できないのでは。

③ 短所を補うアイデア

〇 重要な変更点や事項をメモする。

＜研究内容③＞「単元（題材）評価・改善シート」と「教育課程の編成手順」に関するアンケート・話し合い（各学部）

【方法2】

① 長所

- ○ 忘れないうちにできる。子どもの反応をシートに生かせる。
- ○ 単元（題材）終了時だと，明確な反省を出しやすい。
- ○ 検討する時間が分散するので，学部職朝や学部快の時間等を活用しやすい。

② 短所

- ○ 話し合うとなるとタイミングが難しく，回数も増える。
- ○ 確認の時間が十分にとれないのではないか。
- ○ 忘れる。手間が掛かる。

③ 短所を補うアイデア

- ○ 回覧を活用し，「要検討」事項について話し合う。
- ○ シート回覧をして朱書きで意見をもらい，検討事項があった場合のみ話し合いを行う（いくつかまとめて）。

＜研究内容③＞「単元（題材）評価・改善シート」と「教育課程の編成手順」に関するアンケート・話し合い（各学部）

【方法3】

① 各教科については学期ごと，生単，作業，特活は単元ごとに行う。

② 方法1と2を合わせた形

A） 話し合い（改善）が必要なもの → 時間をとって話し合い

B） 話し合いが必要でないもの → 学部会でシート配布のみ。話し合いが必要と意見出た場合は話し合う。

③ 月ごとに係が集めるなどして，改善が必要なものをピックアップし，研修の議題で挙げてはどうか。蓄積と改善（検討）を並行して行う。必要に応じて教科等部会でも検討し，教育課程委員会に挙げる。

【意見】

① 方法1・2ともに話し合う時間の確保が課題では。どんな方法が話し合う時間を確保できるかという視点で考えてもよさそう。

② 合同学習と学級単位の学習の実施の実情あり。シートの作成の仕方は同じか？

＜研究内容③＞
単元（題材）評価・改善シートの蓄積，活用を図り，指導計画や教育課程の編成の手順を確立する。

○　次年度に向けて
「単元（題材）評価・改善シート」と「教育課程の編成手順」について（案）
＜　「方法２：単元（題材）終了後のシート作成」をベースにする　＞

合同学習　単元等のチーフが中心になって作成を担う

①単元等のチーフが
指導計画（評価欄付：空欄）を回覧

②各指導者：記入

③単元等のチーフが集約
（シート作成）

④各課程でシートの検討・確認

⑤教科等の係が集約
（課題の整理）

⑥学部で確認（学部会・学部職朝等）

＜研究内容③＞
単元（題材）評価・改善シートの蓄積，活用を図り，指導計画や教育課程の編成の手順を確立する。

○　次年度に向けて
「単元（題材）評価・改善シート」と「教育課程の編成手順」について（案）
＜　「方法２：単元（題材）終了後のシート作成」をベースにする　＞

学級での学習　教科等の係が中心になって作成を担う

①教科等の係が
シート（空白）を回覧

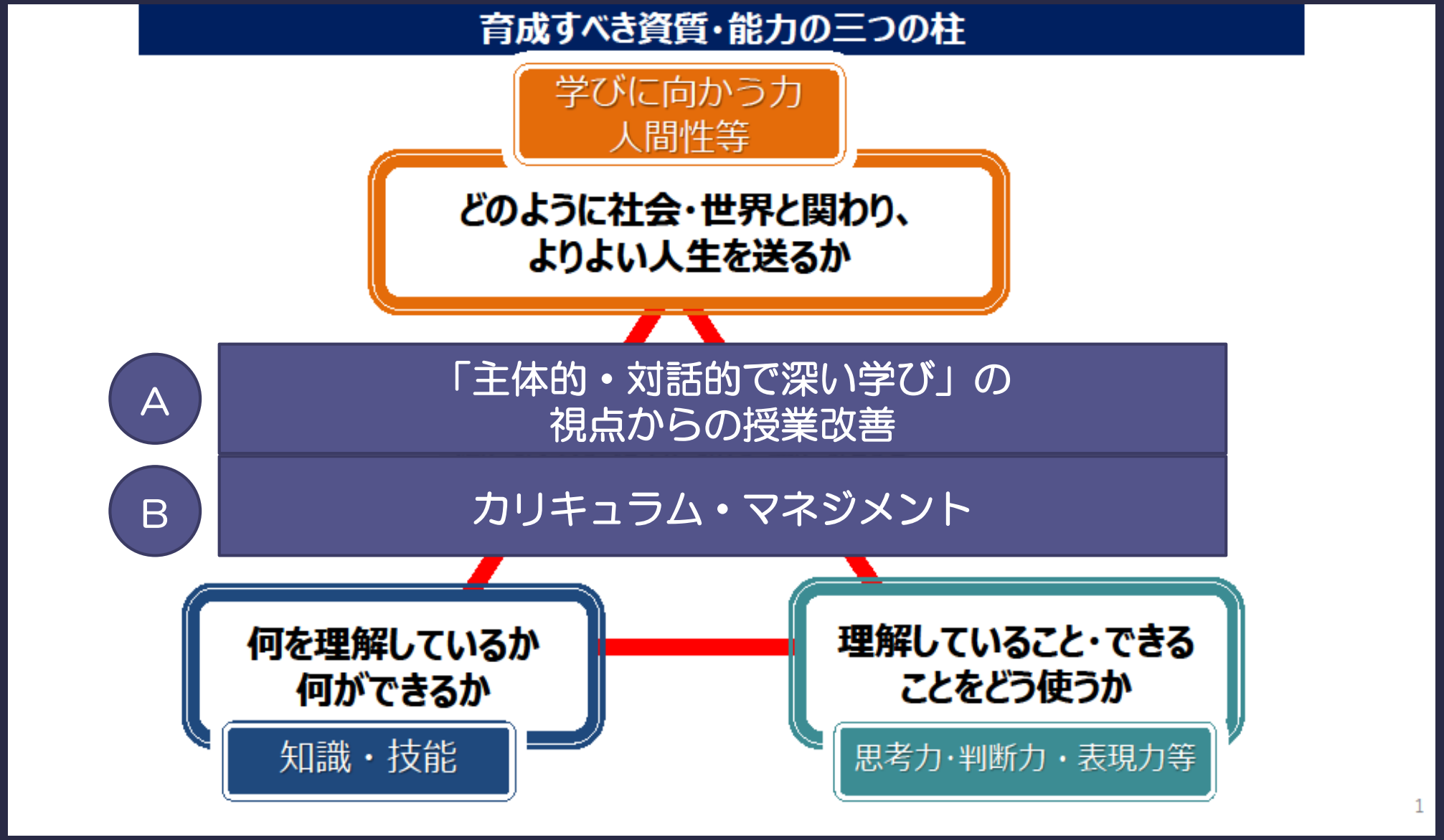
②各学級の指導者：記入

③教科等のチーフが集約
（シート作成）

④各課程でシートの検討・確認

⑤教科等の係が集約
（課題の整理）

⑥学部で確認（学部会・学部職朝等）



AとBの取組を通して育成を目指していく

【参考：平成30年度　県特別支援学校教育課程部会　資料】

本校の研究の取組の整理

A ① 子どもたちの「夢」を分析し，教育的に取り組める内容として重点目標を設定，授業実践する。
〈夢分析シート〉

A B ② 「主体的学び」「対話的学び」「深い学び」につながる一人一授業実践及び授業研究会を行う。
〈インプット・アウトプット〉

B ③ 単元（題材）評価・改善シートの蓄積，活用を図り，指導計画や教育課程の編成の手順を確立する。
〈生活単元学習の年間指導計画の編成〉

夢分析シート	学年 児童生徒名	

夢					
夢達成へ向け 必要となる力 （考えられる課題 の羅列）					
今年度取り組む課題 （課題の焦点化） （重点目標との関連）					
課題に関連する 学習内容 （課題を 教育内容へ） （個別の指導計画の目 標との関連）					
教科等の学習内容 へ取り入れる 教科名					
その教科の 単元（題材）名 実施時期					

「夢分析シート」について（6月18日の研修の感想を踏まえて）　令和元年 10 月

1　「夢分析シート」のよさ【　○印は，感想抜粋・要約　】

（1）　児童生徒の夢と，日頃の授業とのつながりに気付くことができる。

○　自分の考えを整理する良い資料。
○　夢から学習内容等を整理（イメージをもてる）。
○　本人の課題や，それに対する学習を具体的に考えられる。
○　日頃の指導が生徒の夢につながっていると感じた。
○　重点目標と授業との結びつきを考えるきっかけになった。
○　夢分析から付けたい力や課題を検討する前向きな取組。

（2）　児童生徒の課題の共有をしやすくなる。

○　自分のクラス以外の生徒の課題が分かりやすい。
○　ST で指導するときに児童生徒の課題を意識して取り組める。
○　家庭と，児童生徒の目標について共有しやすくなる（学校でやっていることが夢につながることの説明資料になる）。

（3）　合同学習での活用が期待できる。

○　シートの共通理解により，合同学習にも生かせるのではないか。

（4）　考察

担任する児童生徒の「夢」と日頃の指導との関係を整理しやすいことに加え，シートの構造により，児童生徒が夢の実現に向けて，何に重点を置いて学んでいるかを読み取りやすい。それにより，担任以外の教師が，合同学習等で個に応じた指導や支援を進める際に活用することが期待できる。

2　「夢分析シート」の課題　【　□印は，感想抜粋・要約　】

（1）　意見交換の場の設定が必要

□　夢によっては，作成が難しい。
□　教科等が偏ることがあるが，それでよいか迷った。

（2）　教科等の選択の進め方の難しさ

□　学習内容や教科など精選して書く面があり，「これで良いかな？」と不安等を感じる。
□　やはり考えてしまうので，時間を要した。
□　授業で取り組みたい課題はたくさんあり，絞り込み等が難しかった。

（3）　「夢分析シート」の今後の活用の仕方の整理

□　個別の教育支援計画のシートとの差別化が課題。

（4）　考察

「夢」は本人・保護者への聞き取りで行うので，職業に関連することや，具体的な生活の姿など様々なものが挙がる。そして，「夢」が茫洋としていて，それだけでは指導の方向性をイメージしづらいときもある。

シート作成後も，本人・保護者と機会を生かして話し合って具体的なニーズの把握に努めるとともに，担任を中心に職員間で意見交換を進めることで，現在の各学習での取組を「夢」との関連において，より具体的に捉えることができるのではないだろうか。

「夢」を本人の興味・関心や，希望などの一つの窓とすることを大切にして，「夢分析シート」を資料の一つとすることで，個別の教育支援計画や，個別の指導計画を「夢」の具現化につながる計画にしていけのではないだろうか。

3　「夢分析シート」について

（1）児童生徒の「夢」の具現化を図る（夢への道筋を）手立てとして作成・活用

夢分析シートの「今年度取り組む課題」と個別の指導計画「重点目標」等との関連を整理

○　「夢分析シート」は，「夢」から現在へのアプローチ。
○　今年の「重点目標（個別の指導計画）」が「夢」につながっていく。
○　「今年度取り組む課題（夢分析シート）」と「重点目標」は，重なりのある部分が出てくる。
○　「夢分析シート」を，個別の教育支援計画や，個別の指導計画の資料の一つとして捉える。
○　「夢分析シート」では表記されにくいが，作成に当たっては，児童生徒の「よさ」を土台にして作成していくこと。　　＜「よさ」：興味や関心，学習や生活する姿　など＞

（2）作成に当たっての配慮点

○　作成は担任が中心となって行い，研修や，ケース会等の既存の会を活用してより多くの視点で児童生徒の夢の分析が図れるようにしたい。（４月：「夢」の家庭訪問での聞き取り，５月中：個別の教育支援計画の保護者配布）

【記入例】

	夢分析シート	学年 児童生徒名	小学部〇年　〇山〇太			
①	夢	一人で買い物に行けるようになってほしい				
②	夢達成へ向け 必要となる力 （考えられる課題 の羅列）	ものの名称を覚える。　文字を覚える。　数字を覚える。　お金の意味や活用，等価関係。　横断歩道の渡り方。　歩道の歩き方。　交通ルール。　お店でものを買うことの理解。　もののマッチング。　情緒の安定。認知課題。コミュニケーション力。体力。　歩行能力。				
③	今年度取り組む課題 （課題の焦点化） （重点目標との関連）	文字を覚える。　数字を覚える。　コミュニケーション力。				
④	課題に関連する 学習内容 （課題を 教育内容へ） （個別の指導計画の目標との関連）	動物や果物，身近な文房具の名前をひらがなで書いたり，読んだりする。	1～100までの数字を書いたり，読んだりする。	10，20，30の各まとまりの数の集まりを具体物で作る。	1桁＋1桁の足し算をする。	教師の「おはようございます」の言葉を聞いて，顔を向け，ハイタッチができる。
⑤	教科等の学習内容 へ取り入れる 教科名	国語	算数	算数	算数	日生
⑥	その教科の 単元（題材）名 実施時期	もののなまえ 6～7月	かぞえて みよう 4～5月	かぞえて みよう 4～5月	かずのへんか 9～10月	朝の会 通年

① 年度当初だけでなく，機会を生かして話題にし，より具体的な把握をする。職業や，生活する様子など，様々なことが挙がる。
（夢が興味・関心に基づいたもの）
（夢の実現に，興味・関心に関連させて指導することが求められるもの）　など

② 「①」から，どんな力が必要となるか，担任だけでなく，より多くの意見を聞くようにする。本人の実態にこだわらず，必要となる力を挙げる。

③ 夢に関する面で，どんな力を今付けてほしいか，期待できるか，絞り込む。絞り込みに当たっては，児童生徒の「よさ」を踏まえたい。

④⑤⑥ 教科等の年間指導計画を参考に検討する。また，個別の指導計画の各教科等の年間目標への活用を図る。

（3）今後について

○　来年度までの研究を経て，個別の教育支援計画の様式等への活用を検討するのも一つの方法ではないか（研究でずっと取り組むことはできない）。
○　個別の教育支援計画や個別の指導計画と，夢分析シートとの関係の図式化をして，関係性を捉えやすくしたい。

令和２年度

鹿児島県立中種子養護学校

令和２年度の研究（まとめ）

中種子養護学校　研修係

１　研究主題

平成３０年度～令和２年度（３か年研究）

夢に向かって挑戦する子どもを
目指したカリキュラムの確立

令和２年度のサブテーマ

～３年間の研究のまとめ
「子どもの夢につなげる　なかようの取組」～

２　研究内容

① 子どもたちの「夢」を分析し，教育的に取り組める内容として重点目標を設定，授業実践する。

＜夢応援（分析）シート＞

② 「主体的学び」「対話的学び」「深い学び」につながる一人一授業実践及び授業研究会を行う。

＜インプット・アウトプット＞

③ 単元（題材）評価・改善シートの蓄積，活用を図り，指導計画や教育課程の編成の手順を確立する。

＜指導計画の編成＞

３　研究方法

＜研究内容①＞

「夢応援シート」の作成と活用

(1) 子どもたちの「夢」

⬇　分析（考えられる課題の羅列）

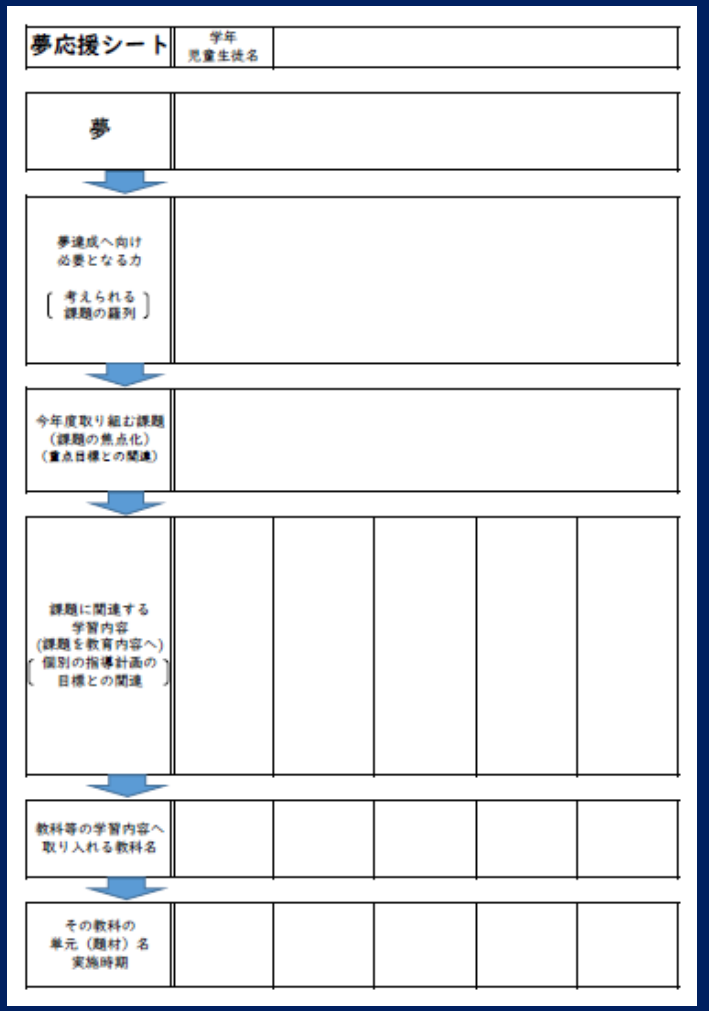
(2) 夢達成へ向け必要となる力

⬇　分析（課題の焦点化）

(3) 今年度取り組む課題　※ 重点目標

⬇　分析（課題を教育内容へ）

(4) 課題に関連する学習内容　※ 個別の指導計画の目標



３　研究方法

＜研究内容①＞

「夢応援シート」の作成と活用

(1) 子どもたちの「夢」
(2) 夢達成へ向け必要となる力

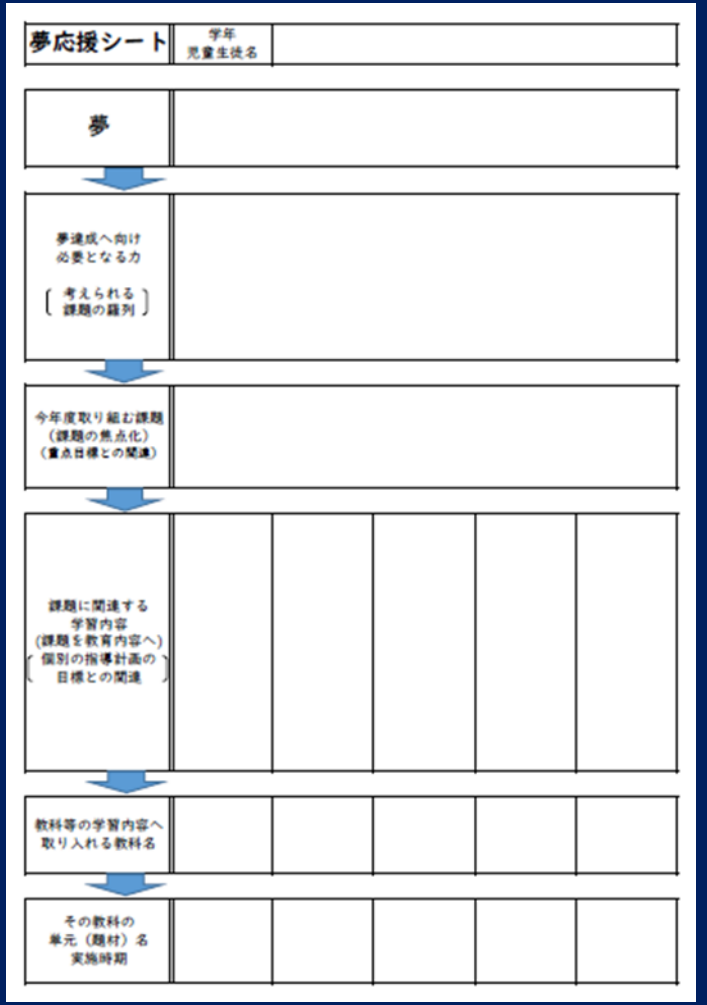
◇　家庭訪問における夢の聞きとりや話し合い
「〇〇ができるようになりたい，なったらいいな」
「〇〇の仕事をしてみたい，できたらいいな」
「〇〇な大人・社会人になりたい，なれたらいいな」
「そのためには，こんな力を身に付けたいな」

３　研究方法

＜研究内容①＞

「夢応援シート」の作成と活用

(2) 夢達成へ向け必要となる力
(3) 今年度取り組む課題
(4) 課題に関連する学習内容



◇　学校における指導目標や指導内容の検討

①　担任による素案の作成

家庭訪問での話し合いや引継資料を基に

②　教科担当・学部職員とのケース会

教科の専門性，複数の視点からの実態把握

３　研究方法

＜研究内容①＞

「夢応援シート」の作成と活用

子どもたちの夢を分析し，具体的に考えていくことで･･･

- 学校でどんなことに取り組んでいるのか
- 学校で取り組んでいることが何につながっていくのか

子どもに関わる大人が，共有・共通理解することで･･･

○　教師間（担任，教科担当，学部職員等）

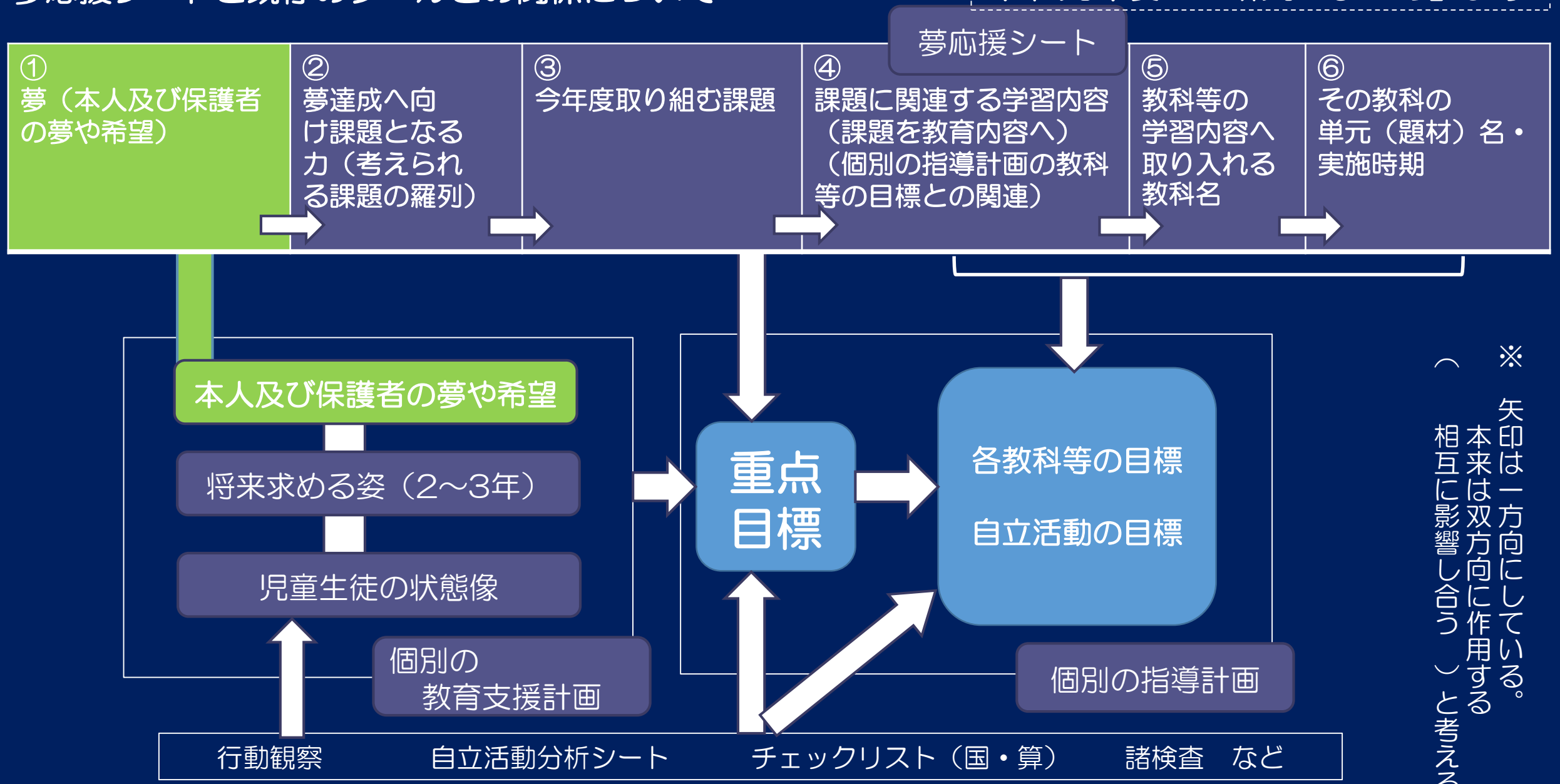
- 子どもに対して，一貫した指導や支援をすることができる。
- 授業づくりにおいて，目標をより意識することができる。

○　学校（担任）と保護者

- 「子どもたちの夢」につながる学校での取組を保護者が理解することで，家庭でも取り組んでみようという思いをもってくださることが期待できる。また，学校における教育活動全般への理解にもつながる。

夢応援シートと既存のツールとの関係について

令和元年度の「研究のまとめ」より



※　矢印は一方向にしている。
本来は双方向に作用する（相互に影響し合う）と考える。

３　研究方法

＜研究内容①＞

「夢応援シート」の作成と活用

令和元年度の年度末アンケートより･･･（一部抜粋）

- どのくらいまで書いたらよいのか。
- 活用状況をもう少し共通理解する場があったらよかった。
- 個別の教育支援計画や個別の指導計画との関連･･･
- 見通しがもちづらい（書き方，使い方など）。

３　研究方法

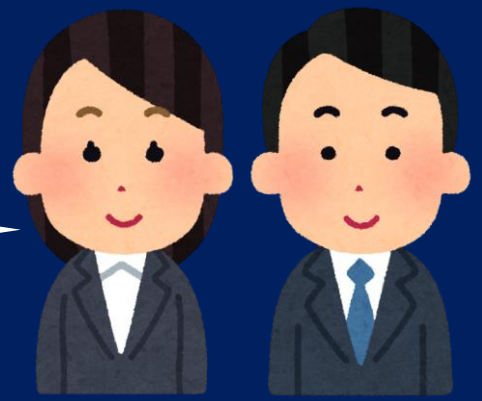
＜研究内容①＞

「夢応援シート」の作成と活用

令和元年度の年度末アンケートより･･･（一部抜粋）

- どのくらいまで書いたらよいのか。
- 活用状況をもう少し共通理解する場があったらよかった。
- 個別の教育支援計画や個別の指導計画との関連･･･
- 見通しがもちづらい（書き方，使い方など）。

年度始めに，小・中・高の全職員で，考え方や
記入方法を共通理解するための研修を行いました。



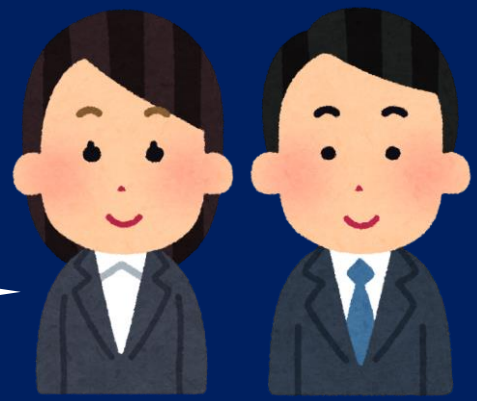
３　研究方法

＜研究内容①＞

「夢応援シート」の作成と活用

学年や課程ごとに，４人前後のグループを作り，児童生徒１人分ずつの夢応援シートを実際に作成してみました。

年度始めに，小・中・高の全職員で，考え方や記入方法を共通理解するための研修を行いました。



３　研究方法

＜研究内容①＞

「夢応援シート」の作成と活用

職員研修後のアンケートより･･･（一部抜粋）　※　５月実施

＜よかったこと＞

- 「この学習が『夢』につながっている」と伝えられることで，子どもも教師も，日頃の取組への意欲が高まると思う。
- 実際に作成することで，子どもの様子や自分の指導方法を振り返りながら，今年度の取組を考えることができた。
- 重点目標を実践するための，具体的なシートだと思う。
- 少人数で意見交換しながら作成することで，参考になり，シートを作成しやすくなると感じた。

３　研究方法

＜研究内容①＞

「夢応援シート」の作成と活用

職員研修後のアンケートより･･･（一部抜粋）　※　５月実施

＜改善した方がよいこと，意見など＞

- 子どもの実態によっては，本人の夢を捉えることが難しい。
- 「課題」だけでなく，「よさ」「得意なこと」「興味」なども挙げていくことで，課題の焦点化や目標設定がしやすいと思う。
- 「夢」をどこまで書いてよいか，複数の夢がある場合はどうすればよいか，難しく感じた。

３　研究方法

＜研究内容①＞

「夢応援シート」の作成と活用

年度末アンケートより･･･（一部抜粋）　※　２月実施

＜よかったこと＞

- 重点目標の検討会では，子どもの様々な場面における様子を教えていただき，参考になった。
- 夢達成へ向けて必要になる力を，具体的に考えることができた。重点目標を立てる上でとてもよかったと感じた。
- 高等部では，「夢」が年間を通して掲示されていて，よかった。

３　研究方法

＜研究内容①＞

「夢応援シート」の作成と活用

年度末アンケートより･･･（一部抜粋）　※　２月実施

＜改善した方がよいこと，意見など＞

- 全体研修で作成の仕方については確認できたが，活用の仕方については，再度確認が必要だと感じる。
- 課題だけでなく，児童生徒のよさや得意なことなどもあげることで，より「夢」につながっていくと感じる。
- 高等部では，「夢」をどこまで現実的なものにするか（しなくてもよいのか）悩む。

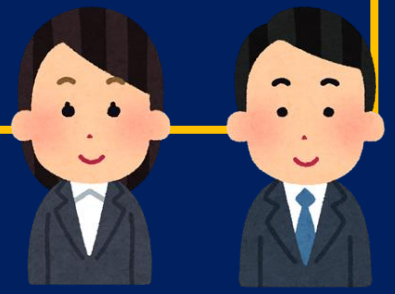
３　研究方法

＜研究内容①＞

「夢応援シート」の作成と活用

　演習を通した職員研修の後に，各学部でケース会を実施し，全児童生徒の「夢応援シート」について，話し合いました。また，教育相談や家庭訪問等における資料として，保護者とも話題にしています。

　今年度の成果と課題を基に，より活用できるようにしていきたいと思います。なお，業務は校内支援係に引き継ぐ予定です。



３　研究方法

＜研究内容②＞

インプット・アウトプット

「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」につながる
一人一授業実践及び授業研究会を行う。

◇　インプット・アウトプットの視点による授業計画と実践

一人一授業実践（研究授業）

- 　インプット・アウトプットについての共通理解。
- 　小・中・高の縦割りで研究班を編成。
- 　略案様式とインプット・アウトプットに関する共通実践項目の活用。
- 　授業研究シートの改善と活用。

学習指導要領改訂の方向性

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く**知識・技能**の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む
「社会に開かれた教育課程」の実現

各学校における**「カリキュラム・マネジメント」**の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない※

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代に求められる資質・能力を育成

知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善

※高校教育については、些末な事実的知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。

インプット

◆　主に「導入」において

＜既に習得していること＞
基礎・基本，既習経験，既習学習

＜学習の場で得る，得ようとしている姿＞
見通しをもつ，見る，聞く，読む

インプットとアウトプットの相互作用

◆　主に「展開（終末）」において

＜学習の場や生活の場で深める姿＞
相互理解，対話，発見，新たな疑問

アウトプット

◆　主に「終末」において

＜学習の場で表出する，表出しようとする姿＞
考えを伝える，思考を深める，振り返る，
話す，書く

３　研究方法

＜研究内容②＞　インプット・アウトプット

インプット・アウトプットに関する共通実践の項目

	平成３０年度の実践からのキーワード		略案の「留意点等」に記入する共通実践の項目
導入	授業に向かう意欲・期待感	→	（意欲・期待感）
	本時の学習の見通し	→	（見通し）
	子ども自身が目標を明確にもつ	→	（目標）
	前時の学習の想起	→	（想起）
	学びにつながる時間設定	→	（時間設定）
展開	意欲・興味・関心の活用	→	（興味・関心の活用）
	子ども同士のやり取りの場の設定	→	（やりとり）
	表現の場の設定	→	（表現）
	理解につながる手立て	→	（理解への手立て）
	話す速さと理解できる言葉の使用（子ども・教師）	→	（言葉）
終末	授業後の達成感	→	（達成感）
	子どもから理解の表現・発信の場	→	（表現・発信の場）
	表現する時間的ゆとり	→	（時間設定）
	子ども自身の振り返り	→	（振り返り）
	次時の活動への見通し	→	（次時へ）

３　研究方法＜研究内容②＞インプット・アウトプット

◇　研究班について

- 小学部・中学部・高等部の縦割りで編成。
- 先生方の希望調査で多かったものから班を設定。（生活単元学習，作業学習，音楽，保健体育，自立活動，特別活動の６班）
- １つの班につき，メンバーは６～７人。

授業研究会の様子

3　研究方法

＜研究内容②＞

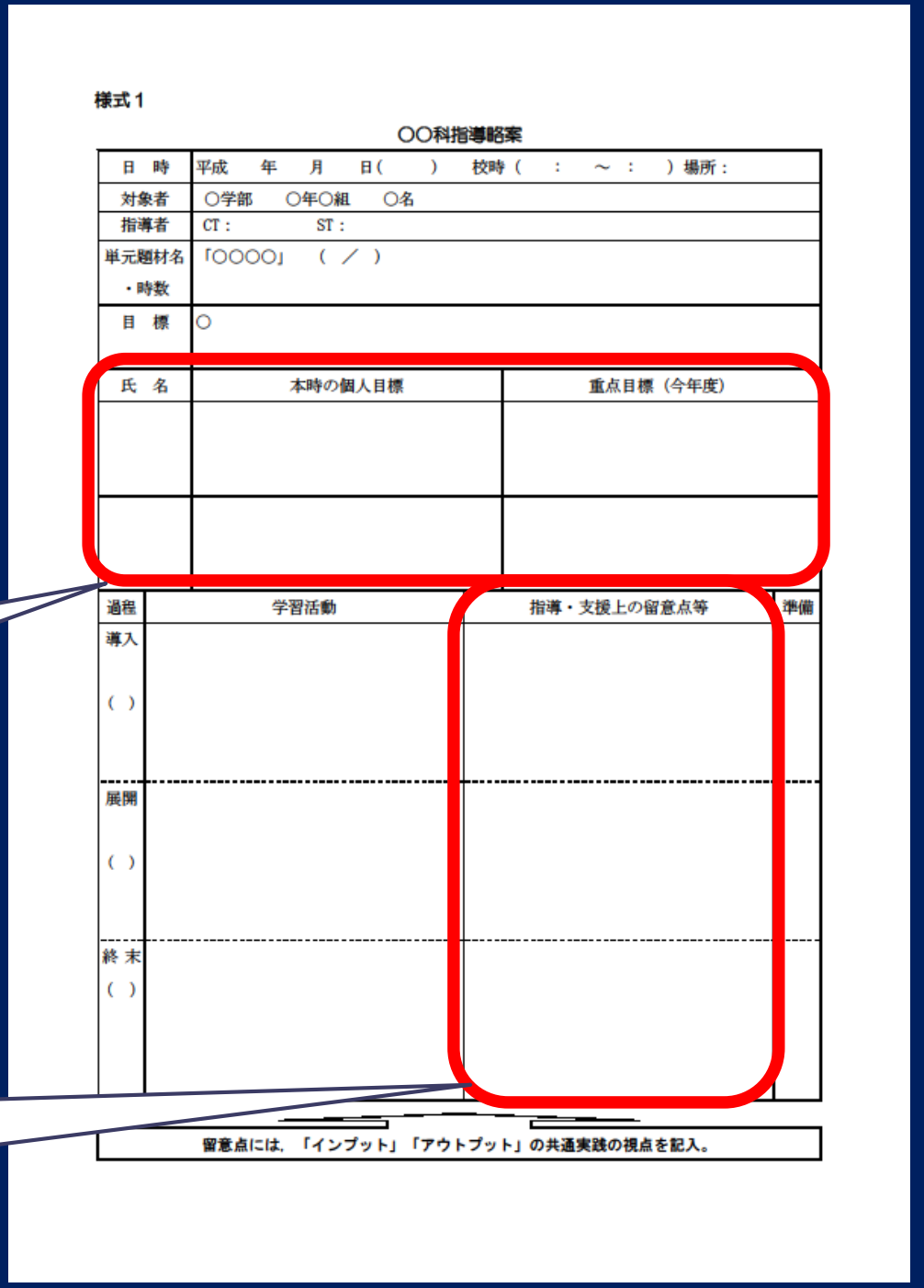
インプット・アウトプット

一人一授業実践（研究授業）

「重点目標」等を指導案に記入し，授業実践を行う。

- 合同の学習など，児童生徒数の多い授業では，数人分を抽出して記入する。
- 単元（題材）が「夢」に関連している児童生徒は記載する。

- 「指導・支援上の留意点」にインプットとアウトプットの共通実践の視点を記入する。



様式１

〇〇科指導略案

日　時	平成　　年　　月　　日（　　）　校時（　：　～　：　）場所：
対象者	〇学部　〇年〇組　〇名
指導者	CT：　　ST：
単元題材名・時数	「〇〇〇〇」　（　／　）
目　標	〇

氏　名	本時の個人目標	重点目標（今年度）

過程	学習活動	指導・支援上の留意点等	準備
導入（　）			
展開（　）			
終末（　）			

留意点には，「インプット」「アウトプット」の共通実践の視点を記入。

３　研究方法

＜研究内容②＞

インプット・アウトプット

◇　インプット・アウトプットの視点による授業計画と実践

一人一授業実践（授業研究会）

- 「付箋４５分方式」で行う（ビデオ視聴含む）。
- 「学んでいたところ」→「インプット・アウトプットできていたところ」，「学びにつまずいていたところ」→「インプット・アウトプットできずに困っていた・つまずいていたところ」という視点で意見交換することができるようにする。

３　研究方法＜研究内容②＞インプット・アウトプット

◇　授業研究シート

◇　授業研究シート（広幅用紙１枚，横置き。付箋を貼って，意見交換する。）

学習活動	学んでいたところ	学びにつまずいていたところ		感想（子どもの学びについて）
		子どもの姿	手立て	
授業における主な学習活動や、授業研究会の中で意見交換したいことなどについて、授業者が二点、記入する。	赤の付箋 「学んでいたところ」 授業中の児童生徒の様子から「インプット・アウトプットできていたところ」を，名前を挙げて具体的に記入する。	青の付箋 「学びにつまずいていたところ」 授業中の児童生徒の様子から「インプット・アウトプットできずに困っていた・つまずいていたところ」を，名前を挙げて具体的に記入する。それをもとに，手立てについての意見交換を行う。		黄色の付箋
	「学んでいたところ」「学びにつまずいていたところ」の整理 児童生徒の学びを現在より「主体的な」「対話的な」「深い」ものにするためにはという，よりよい子どもの姿や授業を目指した視点で整理し，意見交換する。			

指導時数	指導内容	指導方法	教科間，学部間の一貫性・系統性	題材配列	感想（指導時数，内容，方法など）
緑の付箋	緑の付箋	緑の付箋	緑の付箋	緑の付箋	黄色の付箋

昨年度まで使用していたシートの「学びにつまずいていたところ」に「手立て」の欄を加えた。

3　研究方法＜研究内容②＞インプット・アウトプット

◇　授業研究シート

◇　授業研究シート（広幅用紙１枚，横置き。付箋を貼って，意見交換する。）

学習活動	学んでいたところ		学びにつまずいていたところ	
	手立て	子どもの姿	子どもの姿	手立て
授業における主な学習活動や，授業研究会の中で意見をもらいたいことなどについて，授業者が１～２点，記入する	ピンクの付箋	ピンクの付箋	水色の付箋	水色の付箋
	「学んでいたところ」 授業中の児童生徒の様子から「インプット・アウトプットできていたところ」を，名前を挙げて具体的に記入する。また，それに関連する手立てを記入する。		「学びにつまずいていたところ」 授業中の児童生徒の様子から「インプット・アウトプットできずに困っていた・つまずいていたところ」を，名前を挙げて具体的に記入する。また，それに関連する手立てを記入する。	
	「学んでいたところ」「学びにつまずいていたところ」の整理 児童生徒の学びを現在より「主体的な」「対話的な」「深い」ものにするためにはという，よりよい子どもの姿や授業を目指した視点で整理し，意見交換する。 また，授業研究会の終着点として，「目標を達成できたか」というところに着目する。			
感想（指導時数・内容・方法　等）		感想（子どもの学びについて）		
黄色の付箋		黄色の付箋		

これまでの様式では，「指導時数」「指導内容」「指導方法」「教科間，学部間の一貫性・系統性」「題材配列」について，緑の付箋に記入し，意見交換するようにしていた。
しかし，授業研究会の限られた時間の中で，子どもが学んでいたところやつまずいていたところについての意見交換を充実させたいこと，また，「単元（題材）評価・改善シート」で補えるのではないかということなどから，枠を設けないこととした。
ただし，必要に応じて，授業研究会の中でも話題にし，意見交換してもよい。

模擬の授業研究会などを通して検討を重ね，「学んでいたところ」にも「手立て」の欄を加えた。また，「指導時数」や「指導内容」等の欄は削除した（「感想」の欄を残したことで，必要に応じて話題にできるようにしている）。

３　研究方法

＜研究内容②＞

インプット・アウトプット＜研究班について＞

職員アンケートより･･･（一部抜粋）　※　１月実施

＜よかったこと＞

- 他学部の様子を知ったり，指導方法を学んだりできる。
- 授業づくりで迷ったときなど，同じ班の先生方に相談できる「つながり」ができた。
- 意見を出しやすく，話合いにちょうどよい人数だった。

＜改善した方がよいこと・意見など＞

- 学部間の連携はとれるが，学部内のつながりや連携はどうだろうか。縦割りのよさはあるが，児童生徒についての理解が，教師によって十分でないところがあると感じた。

３　研究方法

＜研究内容②＞

インプット・アウトプット＜指導略案について＞

職員アンケートより･･･（一部抜粋）　※　１月実施

＜よかったこと＞

- 重点目標と個人目標との関連を考えることができた。

＜改善した方がよいこと・意見など＞

- 重点目標は全部書くのか，本時に関係のあるところのみ書くのか。
- 指導・支援上の留意点等の欄には「インプット・アウトプットの共通実践項目」を書くのか，「なかようキャリアプランニングマトリックス」を書くのか。

３　研究方法

＜研究内容②＞

インプット・アウトプット＜授業研究シートについて＞

職員アンケートより･･･（一部抜粋）　※　１月実施

＜よかったこと＞

- 手立てを書くことで，意見交換が深まった。
- 子どもの姿から手立てについて振り返ることができ，より授業改善につながっていくと感じた。
- 様式がすっきりし，付箋の色が４色から３色になったことで，シンプルで見やすく，分かりやすくなった。
- （「感想」の欄があることで）教材や指導内容についても意見交換や情報共有ができてよい。

３　研究方法

＜研究内容②＞

インプット・アウトプット＜授業研究会の内容について＞

職員アンケートより･･･（一部抜粋）　※　１月実施

＜よかったこと＞

- 班のメンバーに教科専門の職員が所属していることで，授業についてだけでなく，指導方法や教材等などを教えてもらうことができ，勉強になった。
- 話しやすい雰囲気があり，先生方の多くの意見が聞けてよい。

＜改善した方がよいこと・意見など＞

- 授業研究会の最初に行う「授業研究会で大切にしたいこと」の読み上げや付箋の書き方の確認は毎回でなくてもよいのでは。話し合いを充実させたい。

３　研究方法

＜研究内容②＞

インプット・アウトプット

年度末アンケートより･･･（一部抜粋）　※　２月実施

＜よかったこと＞

- 一人一授業実践は，自分たちの力量を高めるためにもとてもよい取組だと思う。
- 年に数回，授業研究会に参加することで，指導・支援方法が学べるよい機会となった。
- 他学部の授業を参観したり，先生方から意見をもらえたりする，貴重な時間だった。

３　研究方法

＜研究内容②＞

インプット・アウトプット

年度末アンケートより･･･（一部抜粋）　※　２月実施

＜改善した方がよいこと，意見など＞

- 　もう少し，学部内でのつながりを充実させることも必要ではないか。
- 　授業者について（経験年次研修等の対象者も一人一授業をするのか，１年間で全員がするのはハードではないか　等）
- 　授業参観に行ける体制整備。

３　研究方法

＜研究内容②＞

「インプット・アウトプット

　この３年間，「『主体的学び』『対話的学び』『深い学び』につながる」ということに着目し，一人一授業実践及び授業研究会に取り組んできました。研究テーマ等に関わらず，今後も残していきたい取組です。

　授業研究会の中でＶＴＲ視聴をする時間が設定されてはいるが，できるだけ実際に授業を見に行くことができるようにするにはどうすればよいかという課題についても，検討していきたいです。

３　研究方法

＜研究内容③＞

単元（題材）評価・改善シートを教育課程編成に活用

様式３　　令和２年度　単元（題材）評価・改善シート（教育課程につなげるシート）

【　学部】（各教科等　　科）（　　グループ）（　　年　　組）　　記入者（　　）

実施した単元（題材）名	全体目標の達成度 手立ての有効性	実施時期	計画時数 実施時数	主な指導内容	関連させたい 各教科等	全体及び学部で共通理解・検討する事項	その他 （感想・引継ぎ等）
	【目標】 おおむね達成 達成されず 【有効な手立て】 ・ ・	（　月） 適 要検討	（計画　時間） （実施　時間） 適 要検討	・ ・ 適 要検討	・ ・ ・ 変更・追加 （　無　有　）	特に無し 有り（全体） （学部）	
		【改善案】					
	【目標】 おおむね達成 達成されず 【有効な手立て】 ・ ・	（　月） 適 要検討	（計画　時間） （実施　時間） 適 要検討	・ ・ 適 要検討	・ ・ ・ 変更・追加 （　無　有　）	特に無し 有り（全体） （学部）	
		【改善案】					

※他教科等との関連で，繰り返して学ぶことができる内容に注目してください。学部等で検討し，「関連させたい各教科等」をシートに記入します。
※シートは，各教科等の担当者に提出してください。教科担当者は，ファイリングをお願いします。

単元（題材）評価・改善シート

授業担当者が記入し，教科等のチーフが集約。各学部で検討・確認する。教科等のチーフは，そこでの意見を整理し，教科等部会で検討・確認したり，年間指導計画作成に生かしたりする。

令和元年度の「研究のまとめ」より

＜研究内容③＞
　単元（題材）評価・改善シートの蓄積，活用を図り，指導計画や教育課程の編成の手順を確立する。

○　次年度に向けて
「単元（題材）評価・改善シート」と「教育課程の編成手順」について（案）

＜「方法２：単元（題材）終了後のシート作成」をベースにする　＞

合同学習　　単元等のチーフが中心になって作成を担う

①単元等のチーフが
　指導計画（評価欄付：空欄）を回覧

②各指導者：記入

③単元等のチーフが集約（シート作成）

④各課程でシートの検討・確認

⑤教科等の係が集約（課題の整理）

⑥学部で確認（学部会・学部職朝等）

令和元年度の「研究のまとめ」より

＜研究内容③＞

単元（題材）評価・改善シートの蓄積，活用を図り，指導計画や教育課程の編成の手順を確立する。

○　次年度に向けて

「単元（題材）評価・改善シート」と「教育課程の編成手順」について（案）

＜「方法２：単元（題材）終了後のシート作成」をベースにする　＞

学級での学習

教科等の係が中心になって作成を担う

①教科等の係がシート（空白）を回覧

②各学級の指導者：記入

③教科等のチーフが集約シート作成）

④各課程でシートの検討・確認

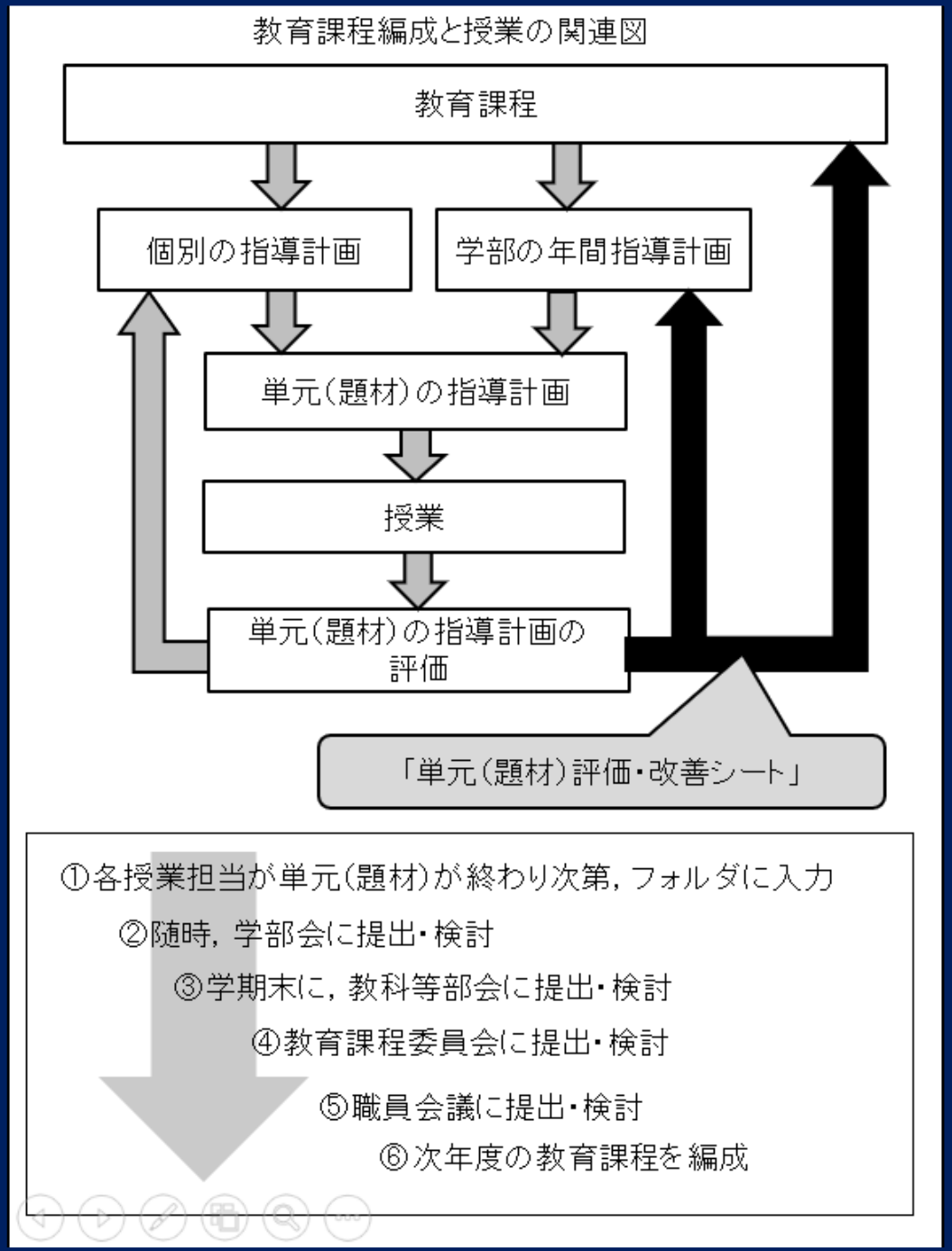
⑤教科等の係が集約（課題の整理）

⑥学部で確認（学部会・学部職朝等）

３　研究方法

＜研究内容③＞

単元（題材）評価・改善シートを教育課程編成に活用



３　研究方法

＜研究内容③＞

単元（題材）評価・改善シートを教育課程編成に活用

年度末アンケートより･･･（一部抜粋）　※　２月実施

＜よかったこと＞

- 来年度にどう生かしていくか，生かしていきたいと思う。
- 内容の見直しにつながり，いい取組だと思った。
- 学部で検討でき，年間指導計画の見直しにもつなげることができた。来年度の授業改善にもなるのでよい。
- 改善シートの作成は大変ではあるが，ＰＤＣＡサイクルがしっかりとできてよい。
- 年間指導計画の見直しが実際にできた。

３　研究方法

＜研究内容③＞

単元（題材）評価・改善シートを教育課程編成に活用

年度末アンケートより･･･（一部抜粋）　※　２月実施

＜改善した方がよいこと，意見など＞

- 国・数などの習熟度別に分かれているものは，そのときの子どもの実態に応じて授業を行っているので，引継資料にはなっても年間指導計画の改善につながるのかなと感じる。
- 単元（題材）の終わりごとに作成する流れが定着できていない。教師間でも差を感じる。
- 小学部はよく機能していると感じる。中・高でも参考にできるとよい。

３　研究方法

＜研究内容③＞　単元（題材）評価・改善シートを教育課程編成に活用

　年度末アンケートには「小学部の取組が素晴らしい，とてもよく機能していると感じる」という意見がありました。
　なお，小学部では，以下のように取り組んでいるそうです。

- 反省アンケート的に回覧し，検討事項があれば話し合う。
- チーフが作成して回覧し，感想や気付いたことなどを書き込んでもらう。
- 音楽・体育・合同生単・特活については，毎回作成している。

　中学部・高等部では，「教科専門の先生の授業には意見が出しづらい（シートに書きづらい）」という意見もありましたが，小学部の取組を参考にしながら，作成及び活用につなげていけたらと思います。

資　料

各シート等の実際

夢応援シート	学年 児童生徒名	Aさん　小学部6年

夢	・看護師になりたい。【本人】 ・好きなことをして楽しんでほしい。笑顔で生活してほしい。【保護者】
夢達成へ向け 必要となる力 （考えられる課題 の羅列）	・周りの状況を見て判断する。 ・語彙を増やす。 ・文字を丁寧に書く。文章で話したり，書いたりする。 ・状況に応じたやりとりや正しい言葉遣いができる。 ・手指の巧緻性を高める。 ・身の回りのことや作業の流れを確認しながら，一つ一つ丁寧に行う。
今年度取り組む課題 （課題の焦点化） （重点目標との関連）	・語彙を増やし，会話や文章の中で使えるようにする。 ・手先を使った作業を，見本を見ながらゆっくり丁寧に行う。 ・身の回りの片づけや整理・整頓を進んで行う。

課題に関連する 学習内容 （課題を 教育内容へ） （個別の指導計画の目 標との関連）	・着替えの際服装をきちんと整えたり，脱いだ服の片付けを丁寧に行ったりする。	・友達や教師と関わる際には，言葉遣いに気を付けながら，進んで会話をする。	・字の形や大きさに気を付けながら，丁寧に文字を書く。	・折り紙やハサミを使った制作など手先を使った作業を丁寧に行う。	
教科等の学習内容 へ取り入れる 教科名	日生	体育　自活 特活　音楽 国語　算数	国語　算数	自活　生単	
その教科の 単元（題材）名 実施時期	着替え （通年）	コミュニケーション （通年）	通年	通年	

夢応援シート	学年 児童生徒名	Bさん　小学部5年

夢	・スーパーわかさの店長（店員）さんになりたい。【本人】 ・車の運転がしたい。【本人】 ・自立してほしい（グループホームまたは自宅から通い，B型就労）【母】 ・好きなスポーツができて，体を動かすことが好きになってほしい。【母】
夢達成へ向け 必要となる力 （考えられる 課題の羅列）	・コミュニケーション能力 ・平仮名の読み書き ・見通しをもって行動できること
今年度取り組む課題 （課題の焦点化） （重点目標との関連）	・コミュニケーション能力の向上 ・平仮名の読み書きができ，字を丁寧に書ける。 ・見通しをもって行動をすることができる。

課題に関連する 学習内容 (課題を教育内容へ) （個別の指導計画の 目標との関連）	・ルールやマナーを守って集団学習をすることができる。 ・見通しをもって，活動に参加をすることができる。	・平仮名や片仮名の読み書きをする。	・数字の読み書き。 ・11以上の数唱。 ・5までの数の足し算。	・滑舌をよくする。（明瞭に発音する）	・物や自動車の名前を覚える。
教科等の学習内容へ 取り入れる教科名	特活　音楽　体育 生単　日生　クラブ 活動	国語	算数	自活	国語
その教科の 単元（題材）名 実施時期	集団学習すべて （通年）	・本を読もう ・文字を書こう	・数えてみよう ・数の変化	・口や唇，舌の動きを円滑にする。（通年）	・名前当てをしよう。 ・文字を書こう。

算数科　学習指導案

令和３年１月 29 日 （金）
小学部　５・６年１組　４人
場　所　１・２・３年教室
指導者　原口舞衣子（ＣＴ）
一ノ宮雄二（ST）田元清香（ST）

１　題材名
「かぞえてみよう」「かずのへんか」【数と計算】

２　題材への願いと主な手立て
ア　題材への願い
本題材では，すごろくや輪投げ等のゲームを通して，物の個数や数字に関心をもち，数を正しく数えて大小を比較したり，足し算をして得点の合計を求めたりすることができるようになってほしい。また，サイコロの目や表の数字を見て合計を出す学習を繰り返し行うことで，それぞれの児童の実態や目標に応じた数の数え方や表し方，計算の仕方を習得することができるようにしたい。

イ　主な手立て
○　児童が主体的に学習に取り組むことができるように，役割分担を決めてゲームを行ったり，学習したことを協力して表にまとめたりして，児童同士が関わり合いながら活動するようにする。【興味関心の活用，やりとり】
○　数を視覚的に捉えながら数えたり，計算したりすることができるように，児童の実態に応じて，ブロック等の半具体物を用いるようにする。【理解への手立て】
○　ゲームを行い，得点の合計や順位が分かるためにはどうしたらよいかを表を見ながら考えたり，実態に応じたワークシートを用いて得点を計算したりする学習を繰り返し行うことを通して，児童の数学的な見方，考え方を養うことができるようにする。

３　題材指導計画（全７時間）

次	主な学習活動	時数	備考
一	〈すごろくをしよう。〉 ・　二つのサイコロを振り，出た数を足してこまを進める。 ・　指定された数字を見て，こまを進めたり戻したりする。	2	すごろく さいころ こま
二	〈輪投げをして，入った輪の数の合計を求めよう。〉 ・　１人 10 本ずつ２回行う。 ・　入った輪の数の合計を求めるにはどうしたらよいか考える。 ・　半具体物やワークシートを使って合計を計算し，結果を表に書いて確認する。	1	輪投げセット 写真カード 点数を書く表 ブロック等 マジック ワークシート
三	〈輪投げをして，得点の合計を求めよう。〉 ・　点数を２点，または５点に設定し，１人 10 本ずつ２回行う。 ・　自分の得点の合計を求めるにはどうしたらよいかを考える。 ・　半具体物やワークシートを使い，実態に応じた方法で数えたり計算したりして得点の合計を求め，結果を表に書いて確認する。	2	輪投げセット 写真カード 点数を書く表 ブロック等 マジック ワークシート
四	〈輪投げをして，チームの得点を求めよう。〉 ・　２人または３人のチーム対抗で，１人 10 本ずつ２回行う。 ・　チームの得点を求めるにはどうしたらよいかを考える。 ・　半具体物やワークシートを使い，実態に応じた方法で数えたり計算したりして得点の合計を求め，結果を表に書いて確認する。	2 (本時) 1/2	輪投げセット 写真カード 点数を書く表 ブロック等 マジック ワークシート

４　本時について（６／７）
（１）全体目標

全体目標	評価
ア　輪投げゲームをして，入った輪の数を数えて大小を比較したり，足し算をして得点の合計を求めたりすることができる。〔知・技〕	
イ　チームの得点を出すためにはどうしたらよいかを考え，ブロックを操作したり，式を立てて計算したりして，結果を表に書くことができる。〔思・判・表〕	

（2）対象児童生徒の個人目標

対象児童生徒	個人目標	評価
Aさん （6年・女）	ア　表の数を見て足し算の式を立て，10 のまとまりを作ることにより，正しく計算することができる。〔知・技〕	
	イ　チームの得点を出すためにはどんな計算をしたらよいかを考え，式を立てて求めた数を表に書いて発表することができる。〔思・判・表〕	
	【夢と重点目標】 夢：看護師になりたい。 重点目標：○　語彙を増やし，相手に伝えたいことを分かりやすく話したり，文章に書いたりすることができる。 ○　手先を使った作業を，教師の見本を見ながら丁寧に行うことができる。	
Bさん （5年・男）	ア　表の数を見てブロックを並べ，合わせていくつになるかを数えて数字で表すことができる。〔知・技〕	
	イ　１回目と２回目に入った数を合わせることで得点が分かることに気付き，ブロックを操作して求めた数を表に書いて発表することができる。〔思・判・表〕	
	【夢と重点目標】 夢：「スーパーわかさ」の店長（店員）になりたい。車の運転がしたい。 重点目標：○　口を開けてゆっくり大きな声で話すとともに，自分の思いや要求を相手に言葉で伝えることができる。 ○　平仮名の読みとなぞり書きや視写ができる。また，自分の名前を平仮名で書くことができる。 ○　１日の予定や行事の見通しをもって行動することができる。	

（3）実際　　【　】：インプット・アウトプットの共通実践項目

過程	主な学習活動	指導・支援上の留意点等	準備等
導入 (5)	1　始まりの挨拶をする。 2　本時の学習について知る。 わなげをして，チームのとくてんをだすためにはどうしたらよいだろう。	・　チーム対抗でゲームをすることへの期待感や，学習への見通しをもつことができるようにする。	「本時の学習」カード
展開 (30)	3　輪投げゲームをする。 ・　２チームに分かれ，１人 10 本ずつ，２回投げる。 ・　入った数を２人で数えて表に書く児童に伝える。	・　一つのチームが輪投げをする間，残りの２人は輪を集めて渡す係，表に書く係を担当し，協力してゲームを進めることができるようにする。 【やりとり】【興味・関心の活用】	輪投げセット 写真カード 輪の入った数を書く表 マジック
	4　輪の入った数を書いた表を見て，チームの得点を出すためにはどうしたらよいかを考える。 ・　自分の考えを発表する。 ・　教師と一緒に，自分の取り組むことを確認し，目当てを決める。	・　前時までに学習したことを思い出すため，以前作成した表を提示する。表の数字を指さしながら言葉掛けを行い，１回目と２回目の数を足すと得点が求められることや，さらに同じチームの児童の得点を足すことで，チームの得点が求められることに気付くことができるようにする。　【想起】	前時までに作成した表 文字カード 目当てボード
	5　半具体物やワークシートを使って学習する。 ・　AさんとCさん･･･４人それぞれの得点の合計を式を立てて計算する。次にチームごとの得点の合計を式を立てて計算する。終わったらワークシートを交換し，答えを確認し合う。	・　実態ごとに三つのグループに分かれて学習を行う。 ・　繰り上がりのある足し算では，足す数を分解して 10 のまとまりを作るように言葉掛けをする。確かめの際は，友達に計算の仕方を説明したり，互いに教え合ったりする機会を設定する。 【やりとり】	ワークシート
	・　Bさん･･･ブロックを使って４人それぞれの得点の合計を出す。表の数を見てブロックを並べ，合わせていくつかを数えてワークシートに書く。 ・　Dさん･･･輪の絵カードとブロックの１対１対応に教師と一緒に取り組む。	・　「合わせて」と言いながらブロックのまとまりを合体させることで，言葉と操作を結び付けて足し算の意味を捉えやすくする。　【理解への手立て】 ・　絵やブロックを指さしたり，言葉掛けをしたりして，絵などに注目しやすくする。　【理解への手立て】	ブロック ソフトブロック 絵カード
終末 (10)	6　黒板の表に数字を書き込んで表を完成させ，チームの得点と順位を確認する。	・　個々の児童が数えたり，計算したりして出した数字を表に書いて発表することで，学習したことを共有することができるようにする	得点の合計を書く表 マジック
	7　本時の振り返りを行う。 ・　自分の目当てが達成できたかを発表する。 8　終わりの挨拶をする。	・　目当ての達成状況を確認し，まとめに生かす。	

様式３　　令和２年度　単元（題材）評価・改善シート（教育課程につなげるシート）

【小学部】（　算数　）（　　グループ）（　５，６年　　１組）記入者（　原口　）

実施した単元（題材）名	全体目標の達成度 手立ての有効性	実施時期	計画時数 実施時数	主な指導内容	関連させたい 各教科等	全体及び学部で共通理解・検討する事項	その他 (感想・引継ぎ等)
かぞえてみよう かずのへんか	【目標】 おおむね達成 達成されず 【有効な手立て】 ・すごろくや輪投げ等のゲームの導入	（１月） 適 要検討 ⇩	（計画6時間） （実施7時間） 適 要検討 ⇩	・すごろくゲーム（さいころを２つ振って足し算をする。いくつ進む，いくつ戻る等の操作をする） ・輪投げゲームをして，入った数の表をもとに合計の得点を求める。 ・ソフトブロックと写真を用い，１対１対応で数える ・ブロック等を使って数える。 ・２とび，５とびで数える。 ・足し算や２の段５の段の九九を使って式を立て計算する。 （上記のような活活動を児童の実態に応じて行う） 適 ⇩ 要検討	変更・追加 （無　有） ⇩	特に無し 有り（全体） （学部） ⇩	・すごろくゲームではやり方をすぐに理解して，２つのサイコロの目を指で指しながら数え，合計の数だけこまを動かしたり，書いてある指示に応じてこまを操作したりすることができた。 ・輪投げゲームを通して数えたり計算したりする学習では，実態差が大きい集団のため，活動を共有しながら，個別の課題に取り組む時間を設定するように配慮しながら授業を行った。表の見方や計算の方法で躓く場面も見られたが，回を重ねるごとに合計を出す際の考え方を理解して，積極的に発言したり，集中して課題に取り組んだりすることができていた。 ・データの活用で，表やグラフの読み取り方を関連させて学習したい。
		【改善案】					

夢応援シート	学年 児童生徒名	Aさん　中学部１年

夢	本屋の店員になりたい

夢達成へ向け 必要となる力 〔考えられる 課題の羅列〕	・大きな声であいさつをする。 ・受け答えをしっかりする。 ・ものをていねいに扱う。 ・言葉遣いに気をつける。 ・ものの名称を覚える。 ・時間を守る。 ・お金の計算ができる。 ・掃除をする。

今年度取り組む課題 （課題の焦点化） （重点目標との関連）	・自分の思いや考えを，人前で元気よく発言できる。 ・ＴＰＯに合ったコミュニケーションをとることができる。

課題に関連する 学習内容 (課題を教育内容へ) 〔個別の指導計画の 目標との関連〕	・敬語を知り適切な言葉遣いをする。	・作業に必要な報告・連絡・相談をする。	・モジモジせず，大きな声でハキハキと発表する。	・委員会活動や学級活動などで前に立って話をする。	

教科等の学習内容へ 取り入れる教科名	国語	作業学習	全教科	特別活動	

その教科の 単元（題材）名 実施時期	丁寧な言葉で話そう ９～１０月	通年	通年	通年 学級活動 委員会活動	

夢応援シート	学年 児童生徒名	Bさん　中学部３年

夢	福祉施設での生活（軽作業等）

夢達成へ向け 必要となる力 〔考えられる 課題の羅列〕	・集中力 ・体力 ・自分から，感情・意思の表現 ・コミュニケーション能力 ・作業能力 ・言葉によるコミュニケーション

今年度取り組む課題 （課題の焦点化） （重点目標との関連）	・作業能力 ・コミュニケーション能力

課題に関連する 学習内容 (課題を教育内容へ) 〔個別の指導計画の 目標との関連〕	・語意 ・発表	・身体の動き ・コミュニケーション	・あいさつ ・排せつ ・更衣 ・朝の会 ・帰りの会	・作業能力 ・報告連絡 ・相談 ・会話	

教科等の学習内容へ 取り入れる教科名	国語	自活	日生	作業	

その教科の 単元（題材）名 実施時期	通年	通年	通年	通年	

作業学習学習指導案

令和３年１月 29 日（金）
中学部　窯業班　　５人
場　所　窯業室
指導者　米倉秀太郎（CT）
池畑亮(ST) 前村香住(ST)

１　題材名
「皿つくり」

２　題材への願いと主な手立て
ア　題材への願い
本題材では，皿の製作に必要なことを知り，繰り返し製作に取り組むことで道具や工程，留意点を覚え，生徒が主体的に作業に取り組むことができるようにする。また，レイアウトや柄，模様の配色や配置などを自分で選び判断しながら，見通しをもって製作に取り組むことができるようにしたい。その経験を基に，学校生活の中で生徒が主体的に学習活動に取り組むことができるようになってほしい。
イ　主な手立て
○　皿つくりの作業に見通しをもって取り組むことができるように，導入では工程表や写真カードで作業工程や必要な道具を示す。【見通し・期待感】
○　柄やレイアウトを選択して，製品の規格内に取り入れることができるように絵カードや，配置を計画するカードを準備する。【興味・関心の活用】
○　題材全体を通して必要な道具や作業上の留意点について繰り返し発問をしたり，本時で達成できたことや課題点をノートにまとめたりすることで，作業の知識，技能の定着や自身の活動を振り返ることができるようにする。【理解への手立て，振り返り】

３　題材指導計画（全 10 時間）

次	主な学習活動	時数	備考
一	１　粘土を延ばす・切断する・型に合わせて整えるなどし，皿に成形する。 ２　成形した皿の縁を，へらや紙やすりで修正する。	２	道具カード 留意点のカード
二	３　レイアウトや柄を選択し，皿に模様付けをする。 ４　窯詰をし，素焼きを行う。 ５　素焼きした皿の縁を紙やすりで修正する。 ６　転写シートを貼り，配色を選択して彩色する。	４ (本時) 2/4	道具カード 絵カード 留意点のカード
三	７　皿を洗浄し，撥水材を塗布する。 ８　釉薬を掛け，本焼きを行う。	２	道具カード
四	９　本焼きした皿の底を紙やすりで修正する。	２	道具カード

４　本時について（４／10）
（１）全体目標

全体目標	評価
ア　模様付けの道具の準備や筆の扱い方，作業の工程や留意点を知り，丁寧に作業することができる。〔知・技〕	
イ　配置カードや配色カード等を手掛かりにして，模様付けの配置や配色を選択したり，製作の計画をたてたりして見通しをもって製作することができる。〔思・判・表〕	

（2）対象児童生徒の個人目標

対象児童生徒	個人目標	評価
Aさん （1年・女）	ア　陶芸用絵の具の溶き具合を調整し，転写シートの模様に沿って彩色することができる。〔知・技〕	
	イ　配色カードの名称や使われている色を基に，皿の模様に合わせて配色カードを選択することができる。〔思・判・表〕	
	【夢と重点目標】 夢：本屋さんになりたい。 重点目標：○　報告・連絡・相談に必要な力を身に付けることができる。 ○　工程に見通しを立てて，自分のペースで丁寧に取り組むことができる。	
Bさん （3年・女）	ア　右手でろくろを回しながら，シールに沿ってどべを塗ることができる。〔知・技〕	
	イ　♡と☆の組み合わせを教師と一緒に確認し，配置カードを選択することができる。 イ　配置カードとマッチングさせ，♡と☆のシールを治具に並べることができる。〔思・判・表〕	
	【夢と重点目標】 夢：福祉施設でたくさんの友達と楽しく過ごしたい。 重点目標：○　写真カードや示範を見たり，言葉掛けを聞いたりして，作業や報告に主体的に取り組むことができる。 ○　手元を注視して学習に取り組むことができる。	

（3）実際　　【　】：インプット・アウトプットの共通実践項目

過程	主な学習活動	指導・支援上の留意点等	準備等
導入 (10)	1　全体目標を確認し，本時の目標を立てる。 ＜全体目標＞ きれいに模様付けをするためには，どうすれば良いか。 2　始まりの挨拶をする。 3　本時の作業内容を確認する。 ・必要な道具　・留意点， ・報告のタイミング　・作業時間	・　本時の作業内容や目標，前時の反省を確認することで，本時の目標を決めることができるようにする。【見通し】【目標】 ・　必要な道具をカードや具体物で示すことで，道具を確認し，準備することができる。【想起】 ・　板書に必要な道具や留意点，報告のタイミングを穴埋め式にして発問することで，道具の名称や，作業の留意点などについて想起できるようにする。【理解への手立て】	作業ノート 顔写真カード 道具カード 留意点のカード
展開 (60)	4　模様付けをする。 グループ１ ①　レイアウトと柄を選択する。 ②　色どべで線や模様を描く。 グループ２ ①　配色を選択する。 ②　陶芸用の絵の具で彩色する。 グループ３ ①　配置カードを選択する。 ②　配置カードの順番に沿ってシールを貼り，色どべを塗る。	・　生徒の実態や作業内容に合わせた教具を準備することで，選択し，判断しながら完成までの見通しをもって製作することができるようにする。【見通し】【理解への手立て】 ・　レイアウトや柄，配色や配置のカードの数を絞って提示することで，製品の規格に合わせて製作することができるようにする。【理解への手立て】 ・　選択や確認の際に，「待つ」「板書の確認を促す」「示範や助言をする」と段階的な支援を行うことで，生徒が自ら考え主体的に取り組むことができるようにする。【想起】	レイアウトのカード 水性ペン 配色カード 柄のカード 色どべ 面相筆 シール 配置カード 平筆
終末 (20)	5　片付けに取り組む。 6　振り返りをする。 日誌を書いて本時の学習を振り返り，次時の予告を聞く。 7　終わりの挨拶をする。	・　道具の写真・名称のカードを基に生徒が自分で場所を確認して片付けに取り組むことができるようにする。【理解への手立て】 ・　本時の学習内容や課題点を教師と対話しながら振り返ることで，次時の学習への目標をもつことができるようにする。【達成感】【振り返り】【次時へ】	道具カード 作業ノート

様式３　　**令和２年度**　単元（題材）評価・改善シート（教育課程につなげるシート）

【中学部】（各教科等　作業学習　科）（　窯業グループ）　　記入者（　米倉　秀太郎　）

実施した単元（題材）名	全体目標の達成度 手立ての有効性	実施時期	計画時数 実施時数	主な指導内容	関連させたい 各教科等	全体及び学部で共通 理解・検討する事項	その他 （感想・引継ぎ等）
皿作り （模様付け）	【目標】 おおむね達成 達成されず	１０月 １月 適 要検討	（計画　１０時間） （実施　１０時間） 適 要検討	・皿の成形，修正 ・模様付け,釉薬掛け 適 要検討	・国語 ・特別活動 ・ 変更・追加 （無　有）	特に無し 有り（全体） （学部）	・留意点を穴埋め式にしたことが効果的だった。生徒が道具の名称を覚えることにもつながった。 ・選択,思考する場面を設けたことが生徒の主体的な活動につながった。 ・目標設定について生徒同士で話し合いを設けることで生徒の意図を作業の目標に反映することができた。 ・目標設定や反省の場面で対話をしながら生徒の考えを引き出すようにしたことが効果的だった。
		【改善案】					
	【有効な手立て】 ・穴埋め式の板書 ・レイアウト図 ・目標をまとめたシート		・模様付けに時間を要し,計画していた時数では足りなかった。 ・計画時数を１４時間に増やす。				

※　他教科等との関連で，繰り返して学ぶことができる内容に注目してください。学部等で検討し，「関連させたい各教科等」をシートに記入します。

※　シートは，各教科等の担当者に提出してください。教科担当者は，ファイリングをお願いします。

夢応援シート	学年 児童生徒名	Bさん　高等部２年

夢	物作りの仕事をしたい

夢達成へ向け 必要となる力 〔考えられる 課題の羅列〕	・コミュニケーション能力（自分の意思をはっきりと相手に伝える） ・体力の向上，気持ちの立て直し方 ・積極性，挑戦する意欲 ・働くことへの理解（作業の正確さ・丁寧さ，報告・連絡・相談，相手や場合に応じた態度・言葉遣い，金銭との等価関係） ・学力（語彙，相手の話を理解する力，物事を正しく相手に伝える力，計算，金銭） ・交通ルール（公共交通機関等の利用等）

今年度取り組む課題 （課題の焦点化） （重点目標との関連）	・多くの学習に挑戦する。（作業学習，実習先の拡大，･･･） ・進路実現に向けて自分の課題を自覚し，学習に取り組む。

課題に関連する 学習内容 (課題を教育内容へ) 〔個別の指導計画の 目標との関連〕	・進路に関する学習（産業現場等における実習，事前・事後学習）	・正確に丁寧にある程度の速さで仕事をする，報告等をする，他者と協力して仕事をする，消費者のことを考える，等	・体力向上	・自己理解 ・他者理解	・相手の話を理解する，相手に正しく物事を伝える

教科等の学習内容へ 取り入れる教科名	生活単元学習	作業学習	保健体育	ＬＨＲ	国語

その教科の 単元（題材）名 実施時期	働く生活 （6,10,1,2月）	製品製作 販売学習事前事後学習 （通年）	体力作り （通年）	自己理解 （5,6月） よりよい自己表現（11月）	調べて発表しよう（２月） 新聞を発行しよう（３月）

夢応援シート	学年 児童生徒名	Bさん　高等部２年

夢	物作りの仕事をしたい

夢達成へ向け 必要となる力 〔考えられる 課題の羅列〕	・コミュニケーション能力（自分の意思をはっきりと相手に伝える） ・体力の向上，気持ちの立て直し方 ・積極性，挑戦する意欲 ・働くことへの理解（作業の正確さ・丁寧さ，報告・連絡・相談，相手や場合に応じた態度・言葉遣い，金銭との等価関係） ・学力（語彙，相手の話を理解する力，物事を正しく相手に伝える力，計算，金銭） ・交通ルール（公共交通機関等の利用等）

今年度取り組む課題 （課題の焦点化） （重点目標との関連）	・多くの学習に挑戦する。（作業学習，実習先の拡大，･･･） ・進路実現に向けて自分の課題を自覚し，学習に取り組む。

課題に関連する 学習内容 (課題を教育内容へ) 〔個別の指導計画の 目標との関連〕	・進路に関する学習（産業現場等における実習，事前・事後学習）	・正確に丁寧にある程度の速さで仕事をする，報告等をする，他者と協力して仕事をする，消費者のことを考える，等	・体力向上	・自己理解 ・他者理解	・相手の話を理解する，相手に正しく物事を伝える

教科等の学習内容へ 取り入れる教科名	生活単元学習	作業学習	保健体育	ＬＨＲ	国語

その教科の 単元（題材）名 実施時期	働く生活 （6,10,1,2月）	製品製作 販売学習事前事後学習 （通年）	体力作り （通年）	自己理解 （5,6月） よりよい自己表現（11月）	調べて発表しよう（２月） 新聞を発行しよう（３月）

作業学習　学習指導案

令和２年 11 月 17 日（火）
高等部　　クリーン班　４人
場　所　高等部1年1組教室，3年1組教室
指導者　竹下将也（CT），有馬弘基（ST）

１　題材「清掃をしよう」

２　題材への願いと主な手立て

ア　題材への願い

本題材では，技能検定のテキストや動画を用いて基本的な清掃用具の使い方や動き方の学習に取り組むことで，正しい清掃用具の使い方や手順を身に付けられるようにする。また，身に付けた技能を生かして，場所に合った清掃手順や動きを考えたり，分担しながら協力して作業を行ったりする活動を通して，場に応じた効率的な作業の進め方や正しい清掃用具の使い方等を知って実践する力を高められるようにしたい。

イ　主な手立て

○　意見を出し合えるように必要に応じて教師が加わり，キーワードを基にして発問しながら，意見を引き出せるようにする。【やりとり，理解への手立て】

○　時間設定を行い，時間内で可能な清掃内容を考えるようにし，見通しをもちやすいようにする。【見通し】

○　必要に応じて，教師が模範を示したり，テキストで操作等を確認したりして，正しい扱い方を適宜指導するようにする。【理解への手立て】

○　振り返りしやすいように，カメラ（タブレット端末等）を固定で設置し，清掃の様子を撮影する。【達成感，振り返り】

３　題材指導計画（全27時間）

次	主な学習活動	時数	備考
一	１　クリーン作業について知る。 ・オリエンテーション　・道具の名称，使い方の確認 ２　基本的な清掃技術を身に付ける。 【清掃内容】 ・机上清掃　・自在ぼうき　・弾性床清掃及び机上清掃 ・水拭きモップ・カーペット床清掃　・ダスタークロス ・雑巾の絞り方　・机等の動かし方　　など	15	清掃用具 テレビ タブレット端末 技能検定テキスト
二	３　身の回りの清掃に取り組む。 ・　教室清掃をする。・　特別教室を清掃する。	6 （本時） 1／6	清掃用具，ワークシート 技能検定テキスト
三	４　外部施設の清掃に取り組む。 ・　清掃内容を知る。　・　清掃に取り組む。	6	清掃用具

４　本時について（１６／２７）

（１）全体目標

全体目標	評価
ア　清掃用具を正しく操作して，きれいに清掃することができる。〔知・技〕	
イ　友達と話し合って，清掃方法や手順を考えたり，随時の確認をしたりしながら清掃に取り組むことができる。〔知・技〕〔思・判・表〕	

（２）対象児童生徒の個人目標

対象児童生徒	個人目標	評価
Ａさん （３年・男）	ア　教師や友達のアドバイスを聞き，ダスタークロスや水拭きモップ等を正しく操作して清掃することができる。〔知・技〕	
	イ　清掃内容や手順について，進んで自分の意見を伝えたり，吐き残し等がないか友達と言葉を掛け合ったりして清掃作業に取り組むことができる。〔知・技〕〔思・判・表〕	
	【夢と重点目標】 夢：　働いて自立したい。 重点目標：○　様々な学習や検定を通して自己理解と自信を深めることで，適切な言動や目標に対する努力をすることができる。	
Ｂさん （２年・男）	ア　教師の模範を見たり，教師や友達のアドバイスを聞いたりして，自在ぼうきやダスタークロス等を正しく操作することができる。〔知・技〕	
	イ　清掃内容や手順について，テキスト等を参考にして自分の意見を伝えたり，汚れや掃き残し等がないか，友達と言葉を掛け合ったりして清掃作業に取り組むことができる。〔知・技〕〔思・判・表〕	
	【夢と重点目標】 夢：　物作りの仕事をしたい。 重点目標：○　日々の学習を通して多くのことを経験し，自分の自信につなげることができる。	

（3）実際　　【　】: インプット・アウトプットの共通実践項目

過程	主な学習活動	指導・支援上の留意点等	準備等
導入 (5)	1　始まりの挨拶をする。	・　正しい姿勢，態度で挨拶ができるよう，服装や先言後礼について確認する。	黒板
	2　本時の学習について話し合う。 教室をきれいにするためにはどのように清掃をしたらよいだろう。	・　見通しをもつことができるよう，目標や活動内容を提示する。 【見通し】【目標】	
展開 (35)	3　ペアに分かれて準備する。	・　見守りを行いながら，必要に応じて道具の場所や数等を確認する。	テキスト，DVD，テレビ 自在ぼうき 文化ちりとり等
	4　教室の清掃に取り組む。 (1) 依頼者（教師）の要望を基に，清掃方法をペアで話し合う。 (2) ワークシートに清掃内容や手順を記入する。 (3) 清掃の仕方についてペアで確認する。 (4) 清掃を行う。 【１５分】	・　意見交換がしやすいように，取り組む作業種等を掲示する。【やりとり】 ・　清掃を進めながら自分たちで作業の流れを確認するために手順表を作成することを伝え，使い方を確認する。 ・　生徒同士で意見交換ができるよう，発言の少ない生徒には，教師が質問する。　【やりとり】【想起】 ・　振り返りができるよう，清掃の様子を撮影する。 ・　テキストや模範動画を準備し，生徒たちで確認ができるようにしておく。 【理解への手立て】 ・　必要に応じて，教師が模範を示す。 【理解への手立て】	タブレット 紙くず キーワード（カード） ワークシート
	(5)　振り返りをする。 ・　チェックポイントについて話し合う。 ・　動画を見る。 ・　仕上がりを確認し，自己評価する。 ・　良い点や改善点を話し合う。	・　きれいに清掃するためのチェックポイントについて必要に応じてキーワードを提示する。　【理解への手立て】 ゴミ・汚れ　　道具の使い方 速さ　　協力　　効率 ・　生徒同士で意見交換ができるよう，発言の少ない生徒には，教師が質問する。 ・　生徒の意見を復唱したり，言い換えたりして，生徒同士で互いの意見を共有できるようにする。　【やりとり】	
	5　片付けをする。	・　見守りを行いながら，必要に応じて道具の場所や数等を確認する。	
終末 (10)	6　本時のまとめをする。	・　授業のまとめを通して，生徒が出した意見や感想等を板書し，取組や意欲等を称賛するようにするとともに，次時の取組の確認をする。 【達成感】【振り返り】【次時へ】	ワークシート タブレット
	7　終わりの挨拶をする。	・　正しい姿勢，態度で挨拶ができるよう，服装や先言後礼について確認する。	

様式３　　**令和２年度**　単元（題材）評価・改善シート（教育課程につなげるシート）

【高等部】（各教科等　作業　）（ クリーン　グループ）（　年　組）　記入者（　竹下　将也　）

実施した単元（題材）名	全体目標の達成度 手立ての有効性	実施時期	計画時数 実施時数	主な指導内容	関連させたい 各教科等	全体及び学部で共通理解・検討する事項	その他 （感想・引継ぎ等）
清掃をしよう	【目標】 おおむね達成 達成されず 【有効な手立て】 ・テキスト，動画による清掃方法の確認 ・タブレットによる振り返り	（4～2月） 適 要検討	（計画 27 時間） （実施 21 時間） 適 要検討 ・実施時期，回数の明確な共通理解	・基本的な清掃 ・校内清掃 適 要検討 ・スクイージを使った窓ふきを入れてもよいのではないか。 ・清掃場所の確保	・生単 ・日生 ・ 変更・追加 （無 有） 【改善案】	特に無し 有り（全体） （学部） ・来年度作業班編成が変わるので，どのように実施していくか検討していく必要あり。	・外部清掃については，確保が難しいため関係機関との調整や実施内容を検討する。

※　他教科等との関連で，繰り返して学ぶことができる内容に注目してください。学部等で検討し，「関連させたい各教科等」をシートに記入します。

※　シートは，各教科等の担当者に提出してください。教科担当者は，ファイリングをお願いします。